



National Institute of Informatics

NII Technical Report

**科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性
度の調査研究 - 2003 年度(平成 15 年度)版 - . 人文
社会系編**

**Evaluation of Japanese Universities' Research
Activity Based on the Number of Awards of
Grants-in-Aid for Scientific Research - 2003 Fiscal
Year - . Humanities and Social Sciences**

野村浩康、前田正史、光田好孝、前橋 至、
根岸正光、柴山盛生、西澤正己、孫 媛、杉田茂樹
Hiroyasu NOMURA, Masafumi MAEDA, Yoshitaka MITSUDA,
and Itaru MAEBASHI,
Masamitsu NEGISHI, Morio SHIBAYAMA, Masaki NISHIZAWA,
Yuan SUN, and Shigeki SUGITA

NII-2005-002J
Mar. 2005

Evaluation of Japanese Universities' Research Activity Based on the Number of Awards of *Grants-in-Aid for Scientific Research* – 2003 Fiscal Year – I. Humanities and Social Sciences

Hiroyasu NOMURA
Masafumi MAEDA
Yoshitaka MITSUDA
Itaru MAEBASHI
Masamitsu NEGISHI
Morio SHIBAYAMA
Masaki NISHIZAWA
Yuan SUN
Shigeki SUGITA

科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度の調査研究 - 2003年度(平成15年度)版 - . 人文社会系編

野村浩康
前田正史
光田好孝
前橋 至
根岸正光
柴山盛生
西澤正己
孫 媛
杉田茂樹

科学研究費補助金採択研究課題数による
大学の研究活性度の調査研究
- 2003 年度(平成 15 年度)版 -
. 人文社会系編

野村浩康
東京電機大学

前田正史 光田好孝 前橋至
東京大学

根岸正光 柴山盛生 西澤正己 孫 媛 杉田茂樹
国立情報学研究所

Evaluation of Japanese Universities' Research Activity
Based on the Number of Awards of
Grants-in-Aid for Scientific Research – 2003 Fiscal Year –
I. Humanities and Social Sciences

Hiroyasu NOMURA
Tokyo Denki University

Masafumi MAEDA, Yoshitaka MITSUDA, Itaru MAEBASHI
The University of Tokyo

Masamitsu NEGISHI, Morio SHIBAYAMA, Masaki NISHIZAWA,
Yuan SUN, Shigeki SUGITA
National Institute of Informatics

Abstract

The system of *Grants-in-Aid for Scientific Research* from Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan is one of the oldest ones, which is the funding system for researchers belonging to universities and institutes in Japan. The fund was allotted to each researcher by peer review under the application for their own research projects.

According to development of the science and technology, the research field codes of *Grants-in-Aid for Scientific Research* have been revised every five years. By the middle of 2002 fiscal year, the large modification was discussed and pursued on the research field codes. A new revised table on research field codes was used from the application for 2003 fiscal year research projects.

This is the first report for 2003 fiscal year's version, that is, the research field of humanities and social sciences. One of the major revisions was in the area of "Culture". The field of "Psychology" and "Education" were shifted to the fields of social sciences from that of culture. "Linguistic" was put independently up as one of fields in humanities.

The total number of adopted subjects of research projects at 2003 has been summed up for each universities and institutes on individual new research field and compared to those of 1998-2002 which were reported previously.

On the whole, the large-scale national universities were generally in higher rank in every field, but the research characteristics of universities and institutes have been clearly revealed especially in the new field of "Psychology", "Education", and "Linguistic".

目 次

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度の調査研究について

1 . はじめに	1
2 . 2003 年度（平成 15 年度）「系・分野・分科・細目表」の変更に伴う 採択研究課題の移行の包括的な状況	4
3 . 科学研究費補助金採択研究課題数データベース	6
4 . 調査分析の具体的な整理集計方針について	6

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度：人文社会系編

1 . 概要	8
2 . 分野別	19
2 - 1 人文学	19
2 - 2 社会科学	33

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性化の調査研究について

1. はじめに

科学研究費補助金の「系・部(分野)・分科・細目表」(以下「細目表」という。)は基盤研究等の種目に関し審査分野の区分を示す分類表であり、研究者は実施しようとする研究計画の内容を考え適切な細目を自ら選ぶことになっている。したがって、科学研究費補助金の「細目表」は不断に進展を続ける学問・研究の動向に合う適切なものでなければならない。

科学研究費補助金の「細目表」については1993年度(平成5年度)に抜本的改正が行われ、以後5年ごとに見直されることが平成5年度募集要項に付記された。学術審議会科学研究費分科会(当時)に「分科細目改正検討委員会」が設置されたが、1998年度(平成10年度)は小規模な改正に留められ、2003年度(平成15年度)に大幅な改正を行うことにした。

今回の改正は、学術審議会答申「科学技術創造立国を目指す我が国の学術研究の総合的推進について」(1999年(平成11年)6月29日)に基づき、2000年度(平成12年度)に学術審議会科学研究費分科会審査第一部会に「分科細目改正検討委員会」が設置され、「細目表」についての検討が続けられた。日本学術会議および17の関連学会等の修正・追加意見等を参考に、最終的に新たな「細目表」が決定された。

新たな「細目表」の策定にあたって、科学研究費補助金が人文・社会科学から自然科学までのあらゆる分野を対象とし、研究者の自発的な研究計画に柔軟に対応すると共に、円滑な審査が行えるようにという観点から、次の4点を中心に検討された。

- (1) 学問の進展に的確に対応するために細目を抜本的に見直すこと。
- (2) 研究者の申請にあたって適切な細目のない学際的領域への対応。
- (3) 伝統的な学問の分類に収まりきれない、新しい研究分野への対応。
- (4) 新しい学問分野の申請に対する適切な審査体制の確立。

その結果、今回2003年度(平成15年度)の「細目表」の改正はこれまでにない大幅なものになった。その要点は細かな制度的なことを除けば、次の3点にあると理解できる。

- (1) 「細目表」は、これまでの伝統的な学部(文学・法学・経済学・理学・工学・農学・医学)と複合領域との9つの「部」構成から、4系(総合・新領域系、人文社会系、理工系、生物系)構成へ変更され、細目数を242から278に増やした。
- (2) 部：複合領域を大幅に見直して「総合・新領域系」とし、2つの系にまたがる総合的な分野「総合領域」と2つ以上にまたがる比較的新しい分野「複合新領域」に分けて、柔軟に対応することとした。
- (3) 「総合・新領域系」の分科・細目を、キーワードにより複数のグループに分け、適切なキーグループ審査が導入された。これに伴い他の3系についても全ての細目にキーワードを付した。詳しくは次の科学技術・学術審議会のWebページを参照されたい。

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/011220/011220.htm

2003年度(平成15年度)の「細目表」の大改訂を考慮して、昨年度(2003年度(平成15年度))に、1998年度(平成10年度)~2002年度(平成14年度)の5年間の全ての分野にわたって科学研究費補助金採択研究課題を分析した。その結果から我が国の大学・研究機関の研究活性化度を調べ、国立情報学研究所の「NIIテクニカルレポート」(NII-2003-007J(2003),NII-2004-001~5J(2004))として、Web

上に公表した。

本調査報告は、同様の調査研究の2003年度（平成15年度）版である。このような調査研究には連続性が必要であるので、1998年度～2002年度の調査研究と同じ方針でデータの整理・分析を行う。特に、2003年度（平成15年度）の新しい「細目表」が研究者の申請・採択状況にどのような変化をもたらしたかを中心に解析することにする。

今回の改正で「細目表」は大幅に改訂されたが、科学研究費補助金の配分額の割合は多少変化したものの、研究種目そのものは変わっていない。したがって、1998年度（平成10年度）～2002年度（平成14年度）と同様に、個別課題研究費（基盤研究・萌芽研究・若手研究・特別研究員奨励費）と大型研究費（特別推進研究・特定領域研究・特別研究促進費・学術創成研究費）と研究成果公開促進費、審査・評価・分析経費に分け、個別課題研究費、大型研究費について解析する。

上記枠組みにおける2002年度（平成14年度）と2003年度（平成15年度）との予算配分変化を図1-1に示す。図から明らかなように、項目別予算はほとんど変化していない。言い換えれば、全体的な枠組みの変化はないと見ることができる。

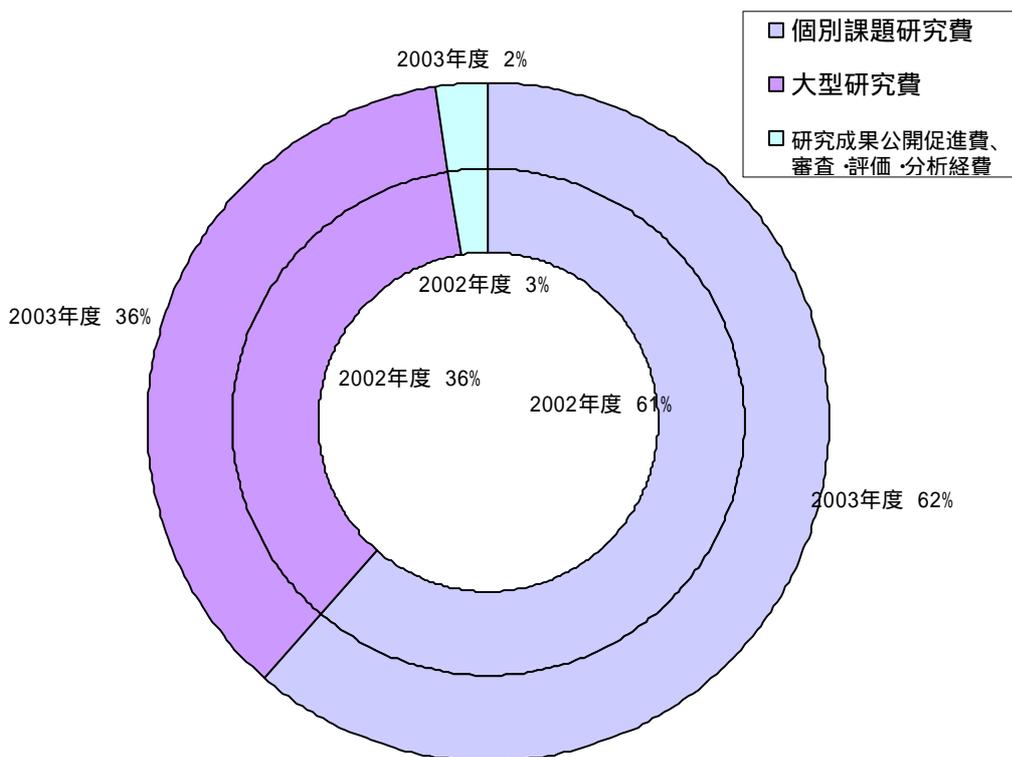


図1-1 2002年度(内周)と2003年度(外周)の科学研究費補助金の項目別予算

「細目表」は、伝統的な学部に対応する9つの「部」から4系・10分野に変更されている。個別課題研究費について、採択研究課題数の変化を次の図1-2-1と1-2-2に示す。大雑把に言えば、人文社会系が15%から17%に微増し、医学が33%から31%に多少減少した以外に目立った変化はない。

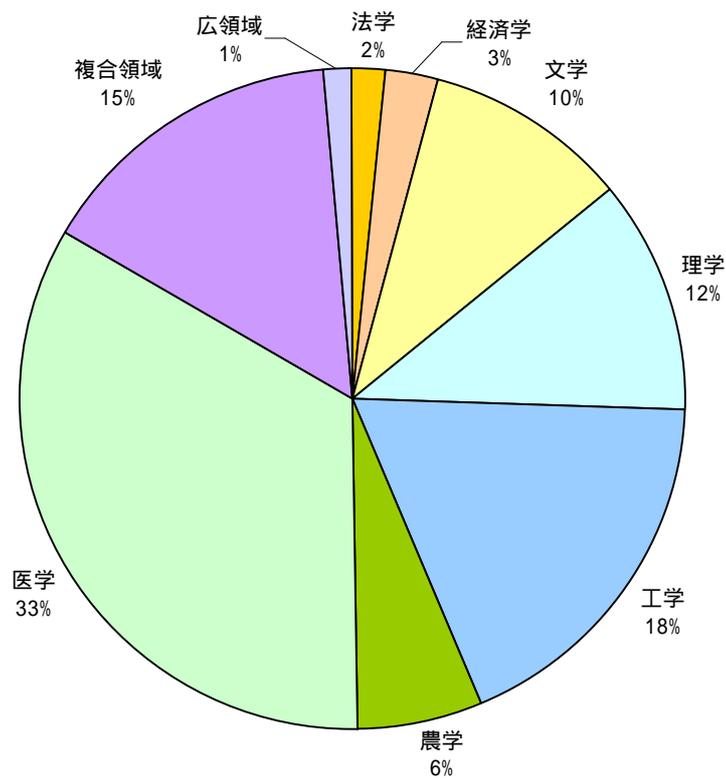


図 1 - 2 - 1 2002 年度科学研究費補助金の「部」別採択研究課題数の割合

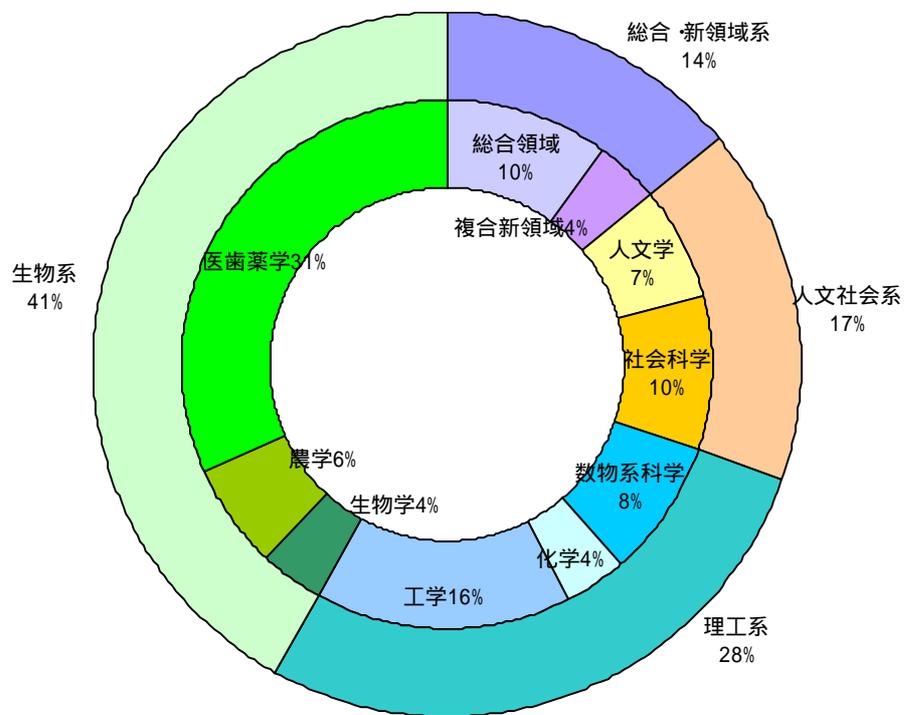


図 1 - 2 - 2 2003 年度科学研究費補助金の「系」別および「分野」別採択研究課題数の割合

2. 2003 年度（平成 15 年度）「系・分野・分科・細目表」の変更に伴う採択研究課題の移行の包括的な状況

2003 年度（平成 15 年度）科学研究費補助金の公募にあたって、日本学術振興会では 2002 年度（平成 14 年度）科学研究費補助金採択研究課題のうち、2003 年度（平成 15 年度）に継続する研究課題の申請については、一部を除いて申請すべき新しい「細目」分野をすべて指示した。2003 年度（平成 15 年度）の科学研究費補助金の個別研究費の採択研究課題数のうち新規・継続件数を整理すると全採択研究課題数 35,525 件中、継続課題数は 20,527 件で全採択研究課題数の 57.8%を占める。2002 年度（平成 14 年度）からの継続研究課題について旧細目番号と新細目番号の両者を調べ、「分科」レベルでの移行の状況を図 1 - 3 に示す。旧研究コードの「分科」、新研究コードの「分科」は、それぞれの「部」または「分野」全体を 100 としたときの割合を併せて示してある。割合の少ないものは、ここでは省略してある。

なお、以下、2003 年度（平成 15 年度）からの「細目表」を「新研究コード」、2002 年度（平成 14 年度）までの「細目表」を「旧研究コード」と呼ぶこととする。

今回の改訂により、いくつかの点で大きく変更されたところがある。

人文社会系では、旧研究コードの部：文学の中の分科：心理学・社会学・教育学・文化人類学がそれぞれ新研究コードの「分科」として独立し、そのうち、分科：社会学、心理学、教育学は分野：社会科学に編入された。また、旧研究コードの分科：文学が新研究コードの分科：言語学、文学として再編されている。

理工系では、旧研究コードの部：理学の分科：生物学が新研究コードの系：生物系に移動した。また、旧研究コードの部：理学の分科：化学と部：工学の分科：応用化学系を新研究コードの分野：化学が包含し、新研究コードでは分野：数物系科学や工学と並ぶ「分野」となった。

生物系には、旧研究コードの部：理学の分科：生物学以外に、旧研究コードの部：農学、医学がグループとしてそのまま移行している。

これらの大きな改訂に合わせて複合領域は大幅に整理され、一部は新研究コードの系：人文社会系、理工系、生物系の各「分科」・「細目」に移行し、系：総合・新領域系として分野：総合領域と新複合領域とに整理された。これにあわせて、新たに、分科：ナノ・マイクロ科学、ゲノム科学、ジェンダー等が分野：新複合領域に分科として設けられた。

このような移行がどのような影響を与えたかは 2003 年度（平成 15 年度）の新規採択研究課題数も含めた「分野」・「分科」ごとに機関別に採択研究課題数を見ていくことにする。

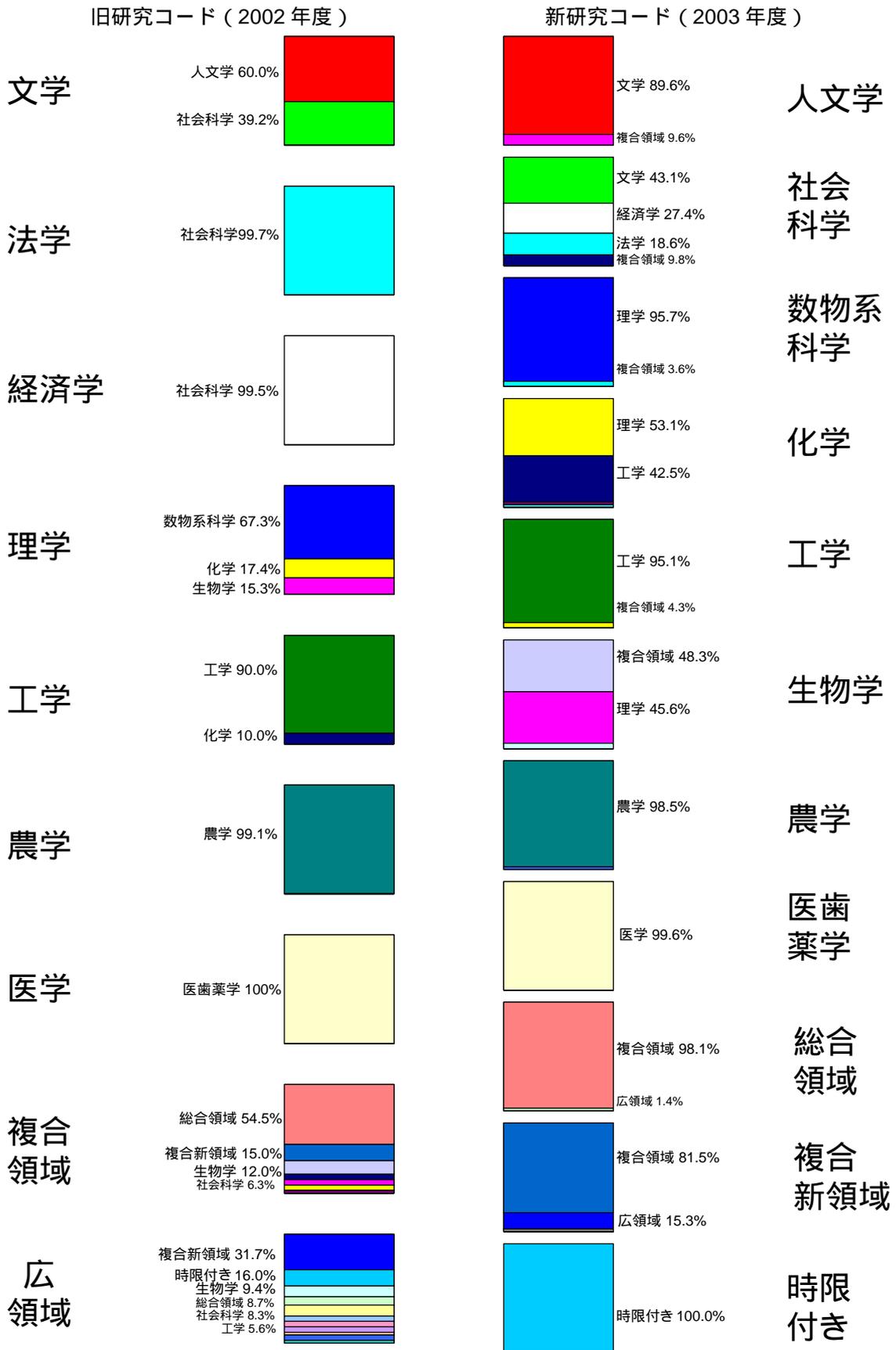


図 1 - 3 2003 年度継続採択研究課題の 2002 年度からの移行の状況

3 . 科学研究費補助金採択研究課題数データベース

科学研究費補助金採択件数その他、採択研究課題等については、「文部科学省科学研究費補助金採択課題・公募審査要覧」(ぎょうせい発行)として、毎年10月に公表・刊行されている。これらの科学研究費補助金採択課題等については、近年、国立情報学研究所からNACSIS-IR Web frontでも公開されている。

本調査研究、特に個別研究費の調査分析にはNACSIS-IR Web frontに公開されているデータベースを用いた。本調査分析に用いたデータベースの概要を表1 - 2に示した。

4 . 調査分析の具体的な整理集計方針について

個別研究費編では、科学研究費補助金採択研究課題数による大学・大学院の研究活性度を、科学研究費補助金申請及び採択に用いられた新研究コード、系・分野・分科・細目にしたがって整理した。基本的には前回の1998年度(平成10年度)~2002年度(平成14年度)の分析の方針と同じである。

本調査・研究では次の方法で整理・分析することにする。

- (1) 各「系」について、2003年度(平成15年度)の科学研究費補助金の採択研究課題数の総数による機関別順位を50位まで整理する。これは、旧研究コードを用いた2002年度(平成14年度)までの5年間をまとめた前回の調査の文系・理系・医系等の分類に対応する。
- (2) 各「分野」は新しく編成され旧9「部」とは異なるが、12分野にわけられており、おおむね学部レベルの学問分野に対応している。各「分野」について、科学研究費補助金採択研究課題数による機関別順位を50位まで整理する。
- (3) 「分科」については、文学、法学、経済学、薬学等学部に対応する学部もあるが、基本的には各「分科」について科学研究費補助金採択研究課題数による機関別順位を30位まで整理する。ただし、課題数が1件以下と少ない場合には、2件までの順位とする。
- (4) 各「細目」については、今回は2003年度(平成15年度)単独年度でもあり、調査件数が少ないことから、分析の対象にはしなかった。この点については、現在の「細目表」が用いられる5年間の採択研究課題数の動向をいずれ見るときに改めて調査・分析の対象としたい。

表1 - 2 本調査・分析に用いたデータベースの概要(2003年度)

金額単位/千円

2003 (H15)			
	分野名	採択件数	配分額
若手研究 (A)	総合領域	41	276,700
	複合新領域	20	173,900
	人文学	9	25,800
	社会科学	12	31,800
	数物系科学	34	245,400
	化学	31	247,200
	工学	97	701,500
	生物学	23	161,900
	農学	24	156,700
	医歯薬学	69	438,100
若手研究 (B)	総合領域	939	1,323,900
	複合新領域	278	442,100
	人文学	443	450,900
	社会科学	827	916,200
	数物系科学	658	844,400
	化学	347	555,200
	工学	1,306	1,901,900
	生物学	329	516,900
	農学	432	644,200
	医歯薬学	2,660	3,812,000
基盤研究 (A)	総合領域	152	1,563,200
	複合新領域	119	1,356,700
	人文学	143	1,109,400
	社会科学	130	1,072,100
	数物系科学	192	1,947,400
	化学	83	968,700
	工学	358	4,104,000
	生物学	87	901,300
	農学	139	1,372,000
	医歯薬学	269	2,817,400
基盤研究 (B)	総合領域	701	3,073,700
	複合新領域	361	1,751,300
	人文学	461	1,549,500
	社会科学	670	2,195,000
	数物系科学	589	2,412,900
	化学	364	1,805,300
	工学	1,395	6,325,800
	生物学	307	1,532,300
	農学	653	3,013,200
	医歯薬学	1,999	8,889,800
基盤研究 (C)	総合領域	1,341	1,809,300
	複合新領域	437	613,000
	人文学	1,271	1,245,800
	社会科学	1,554	1,585,900
	数物系科学	1,183	1,374,100
	化学	415	605,300
	工学	1,749	2,323,100
	生物学	457	662,500
	農学	706	943,400
	医歯薬学	5,081	7,097,000
基盤研究 (S)	時限付き	136	229,500
	総合領域	18	346,400
	複合新領域	10	215,900
	人文学	7	100,300
	社会科学	4	51,500
	数物系科学	26	495,400
	化学	16	326,600
	工学	49	1,033,500
	生物学	16	342,300
	農学	15	323,900
萌芽研究	医歯薬学	37	744,100
	総合領域	338	479,200
	複合新領域	152	260,000
	人文学	119	120,400
	社会科学	205	209,800
	数物系科学	205	258,600
	化学	170	271,200
	工学	553	815,300
	生物学	138	217,200
	農学	240	356,100
特別研究員奨励費	全体	4,965	4,919,450

注 特別研究員奨励費の
2重登録3件を除く

・科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性化度：人文社会系編

1. 概要

新しい人文社会系は、旧研究コードの部：文学・法学・経済学を含んでいる。この3つの伝統的な学問分野を人文学と社会科学に統合し、個々の学問分野を今日的な視点で、人文学では6分科に、社会科学では7分科に分割した。新しい「細目表」を表2-1に示す。

表2-1 平成15年度科学研究費補助金 系・分野・分科・細目表(人文社会系)

系	分野	分科	細目	細目番号	
人文社会系	人文学	哲学	哲学・倫理学	2801	
			中国哲学	2802	
			印度哲学・仏教学	2803	
			宗教学	2804	
			思想史	2805	
			美学・美術史	2806	
		文学	日本文学	2901	
			ヨーロッパ語系文学	2902	
			各国文学・文学論	2903	
		言語学	言語学	3001	
			日本語学	3002	
			英語学	3003	
			日本語教育	3004	
			外国語教育	3005	
		史学	史学一般	3101	
			日本史	3102	
			東洋史	3103	
			西洋史	3104	
			考古学	3105	
		人文地理学	人文地理学	3201	
		文化人類学・民俗学	文化人類学・民俗学	3301	
		社会科学	法学	基礎法学	3401
				公法学	3402
				国際法学	3403
				社会法学	3404
				刑事法学	3405
	民事法学			3406	
	新領域法学			3407	
	政治学			政治学	3501
			国際関係論	3502	
	経済学		理論経済学	3601	
			経済学説・経済思想	3602	
			経済統計学	3603	
			応用経済学	3604	
			経済政策	3605	
			財政学・金融論	3606	
			経済史	3607	
	経営学		経営学	3701	
			商学	3702	
			会計学	3703	
	社会学		社会学	3801	
			社会福祉学	3802	
	心理学		社会心理学	3901	
			教育心理学	3902	
			臨床心理学	3903	
			実験心理学	3904	
	教育学		教育学	4001	
教育社会学			4002		
教科教育学			4003		
特別支援教育			4004		

2002年度（平成14年度）からの継続研究課題について旧細目番号と新細目番号の両者を調べ、「分科」レベルでの移行の状況について 章で述べたが、ここでは、系：人文社会系について図2 - 1に示す。 章と同様に、旧研究コードの「分科」、新研究コードの「分科」は、それぞれの「部」または「分野」全体を100としたときの割合を併せて示してある。

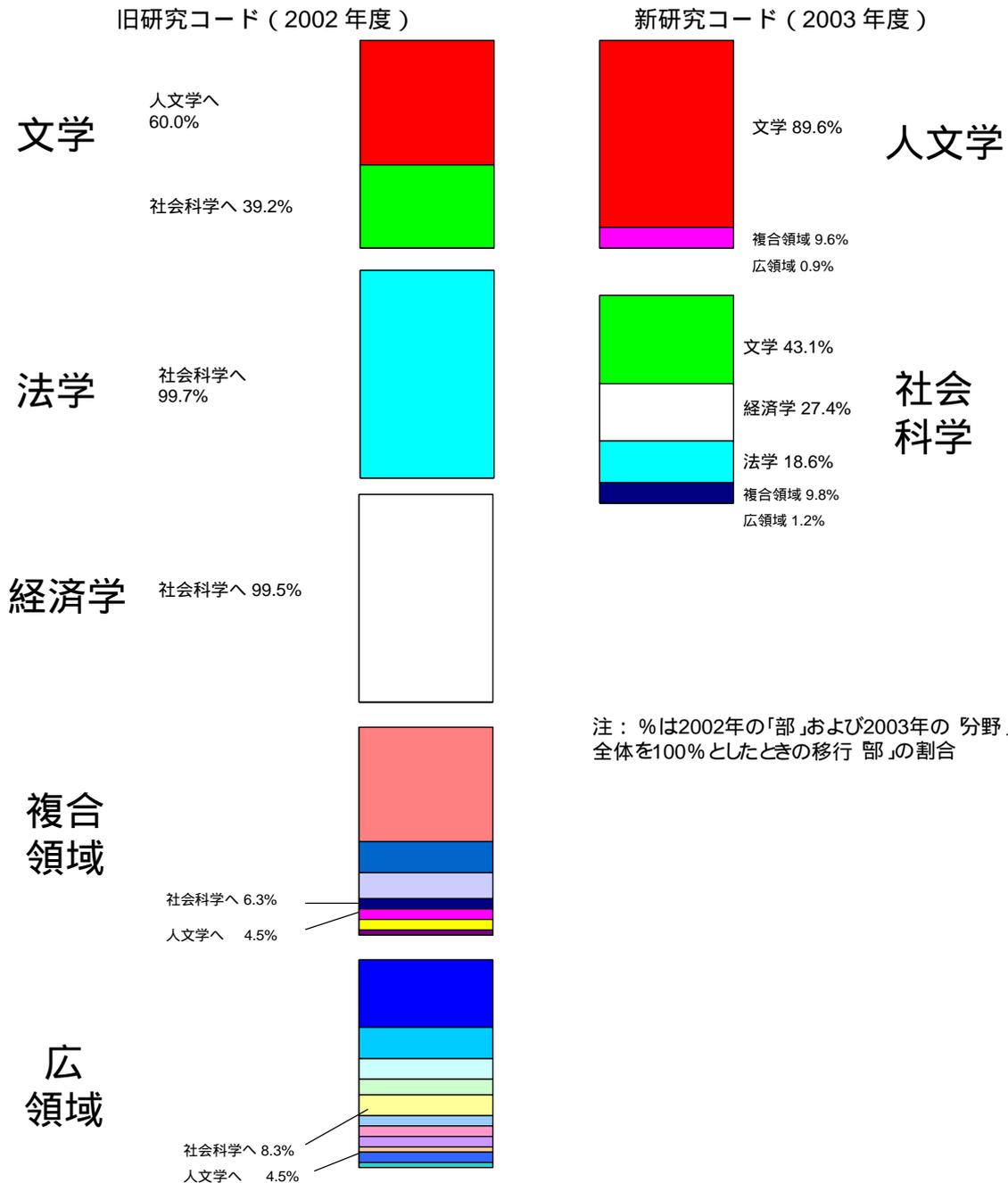


図2 - 1 2003年度継続採択研究課題の2002年度からの移行の状況（人文社会系）

この図から明らかなように、旧研究コードの部：文学、法学、経済学と比較して、かなり整理されていることがわかる。特に、これまで部：文学の中に含まれていた分科：心理学、教育学は表2 - 1でわかるように分科として独立し、社会科学の中で独立した「分科」として整理され、「文学」の中に存在していた「言語学」が「分科」として独立した点が特徴的である。

「人文社会系」全体での機関別採択研究課題数を表2 - 2に、その棒グラフを図2 - 2に示す。表およびグラフから明らかなように、旧研究コードの文系と比較して、東京大学・京都大学の優位は変わらないが、3位から6位に神戸、広島、筑波大学が進出している。特に、私立大学の早稲田大学(4位)、立命館大学(13位)が目立つのに対して、早・慶と並び称される慶應義塾大学が17位であることも興味深い。全体として、国立大学と私立大学が混在しており、この分野での国立大学の優位性が成り立たないことがわかる。他の分野と比べて、私立大学、公立大学が上位に位置していることが大きな特徴であるといえる。

表 2 - 2 人文社会系採択研究課題数上位 50 位 (2003 年度)

金額単位/千円

順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	東京大学	284	802,400
2	国	京都大学	179	444,700
3	国	神戸大学	161	325,500
4	私	早稲田大学	154	271,300
5	国	広島大学	154	245,900
6	国	筑波大学	147	293,800
7	国	東北大学	141	276,200
8	国	北海道大学	139	305,500
9	国	九州大学	135	244,800
10	国	名古屋大学	130	247,700
11	国	大阪大学	126	240,900
12	国	一橋大学	92	208,300
13	私	立命館大学	79	146,500
14	国	岡山大学	75	88,400
15	公	東京都立大学	70	111,800
16	国	東京外国語大学	62	153,600
17	私	慶應義塾大学	58	156,900
18	国	千葉大学	53	103,300
19	国	東京学芸大学	53	75,600
20	国	新潟大学	49	64,300
21	私	日本大学	47	70,100
22	私	関西大学	46	86,900
23	公	大阪市立大学	44	106,000
23	国	静岡大学	44	71,900
23	国	埼玉大学	44	67,600
26	国	琉球大学	43	74,600
26	国	信州大学	43	50,400
28	私	法政大学	42	74,300
29	国	お茶の水女子大学	41	60,200
30	私	立教大学	40	88,900
30	国	横浜国立大学	40	71,000
30	国	金沢大学	40	57,700
33	国研	国立教育研究所	39	85,600
33	国	愛媛大学	39	52,900
35	私	上智大学	37	89,200
35	私	関西学院大学	37	86,700
35	私	明治大学	37	53,700
38	私	東洋大学	36	62,400
38	国	長崎大学	36	44,900
40	私	同志社大学	35	48,300
41	国	滋賀大学	34	43,000
42	国	熊本大学	33	51,200
42	国	福島大学	33	36,700
42	国	山口大学	33	32,800
45	私	中央大学	32	77,900
45	私	青山学院大学	32	50,200
47	国	富山大学	31	44,000
48	国	鹿児島大学	27	46,500
48	国	大阪外国語大学	27	36,300
48	国	茨城大学	27	29,000
		合計	5,855	10,664,400

採択研究課題数

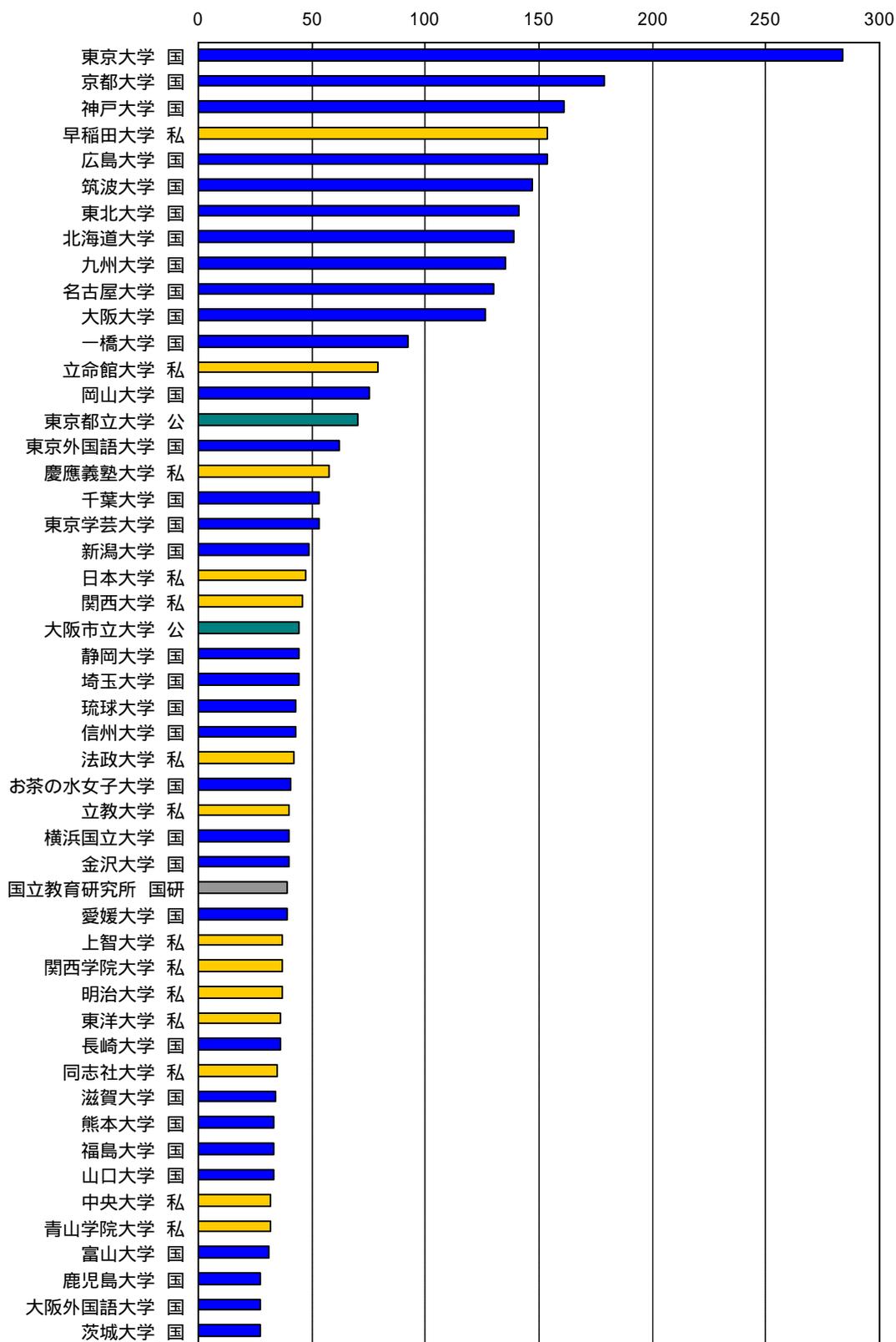


図 2 - 2 人文社会系採択研究課題数上位 50 位 (2003 年度)

この「人文社会系」を新しい「分野」、人文学と社会科学にわけてみる。図2 - 3に示すように、両分野の採択研究課題数は分野：社会科学で58.1%、分野：人文学で41.9%である。採択研究課題数で見ると、この「分野」の割合は1：1に近いことがわかる。

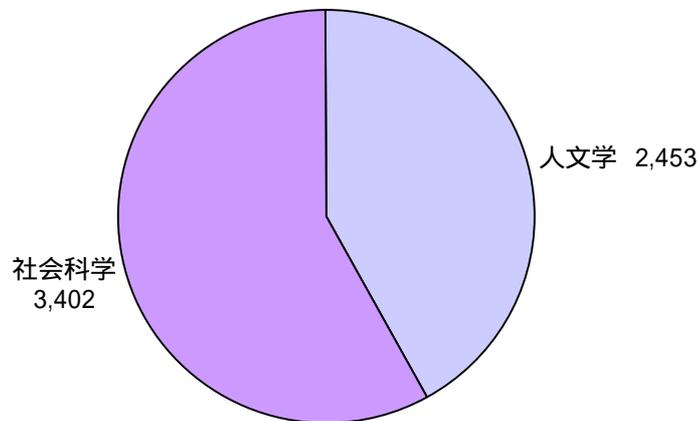


図2 - 3 人文社会系「分野」別採択研究課題数（2003年度）

分野：人文学、社会科学での採択研究課題数を機関別に整理したものの上位50位を表2 - 3に、棒グラフを図2 - 4 - 1と2 - 4 - 2にそれぞれ示す。人文学、社会科学ともに2002年度（平成14年度）までの文系全体の傾向とほぼ同じであるが、個々の分野の特徴も現れている。

分野：人文学では、文学・言語学が新研究コードで整理されたこともあり、東京外国語大学、大阪外国語大学、国立国語研究所等の言語学系の大学・研究所や国文学研究資料館、奈良文化財研究所、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館等が上位にランクされている。また、愛知県立大学が36位に進出するなど、地方国公立大学の特徴が見えるランキングになっている。

分野：社会科学でも全体的な特徴は変わらないが、教育学・心理学がそれぞれ独立した「分科」に位置づけられたこともあり、国立教育研究所、国立特殊教育総合研究所等の教育学系の研究所や、東京学芸大学、兵庫教育大学、上越教育大学、愛知教育大学等の教育大学がランキングに現れてくる。これに対して、旧研究コードの部：経済学で一橋大学が2位にランクされていたが、新研究コードの分類では11位に後退したことが、特徴である。

冒頭、「はじめに」でも述べたが、2003年度の科学研究費補助金の申請にあたって、前年度に採択された継続課題については予め申請すべき新研究コードにおける「系・分野・分科・細目」が指示された。この新研究コードがどのように研究者に認識されたかを見るために、2003年度の採択研究課題について、新研究コードにより申請・新規に採択された研究課題数と前年度からの継続研究課題数の割合をそれぞれの「分野」について分類・解析することとした。分野：人文学、社会科学での新規研究課題数と継続研究課題数を機関別に整理したものを図2 - 5 - 1～2 - 5 - 2にそれぞれ示す。このとき、掲載順は、総採択研究課題数順、すなわち図2 - 4 - 1～2 - 4 - 2と同じ順序とした。新規・継続の合計では機関別順位に大きな変化はみられないものの、それぞれの大学の採択研究課題数の中の新規・継続の割合にはかなりの差が見られるのも興味深い。

採択研究課題数

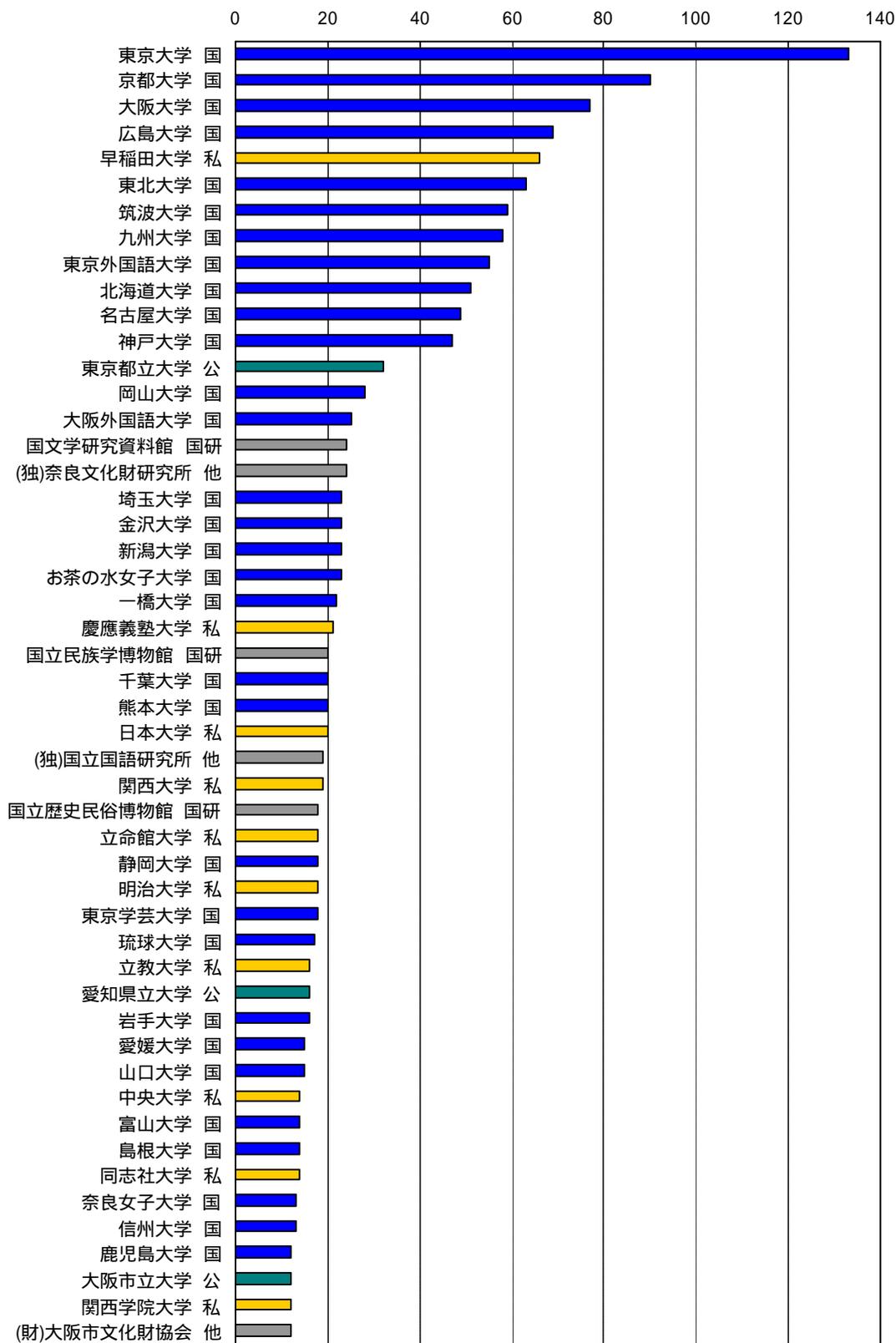


図 2 - 4 - 1 人文学採択研究課題数上位 50 位 (2003 年度)

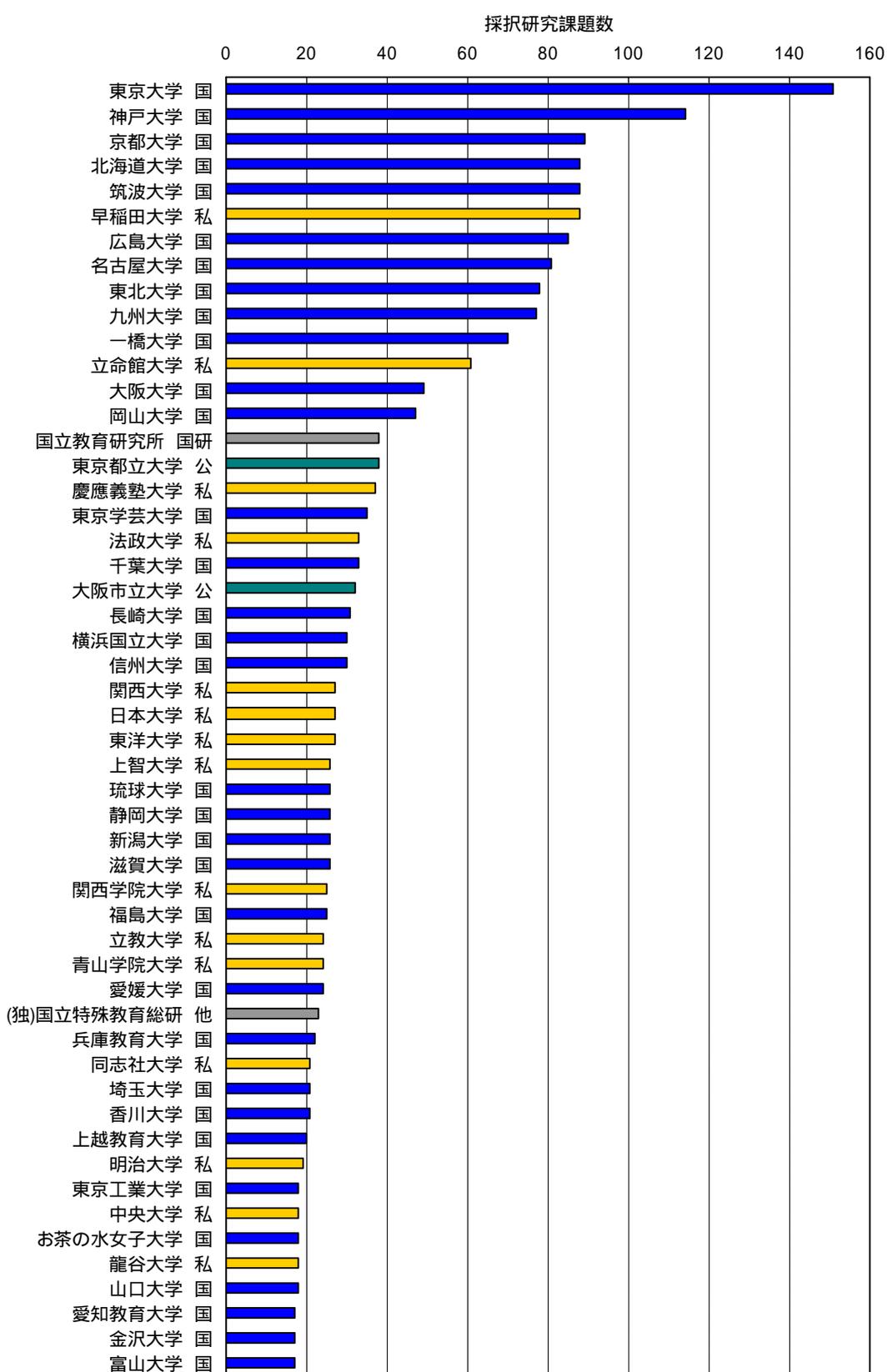


図 2 - 4 - 2 社会学採択研究課題数上位 50 位 (2003 年度)

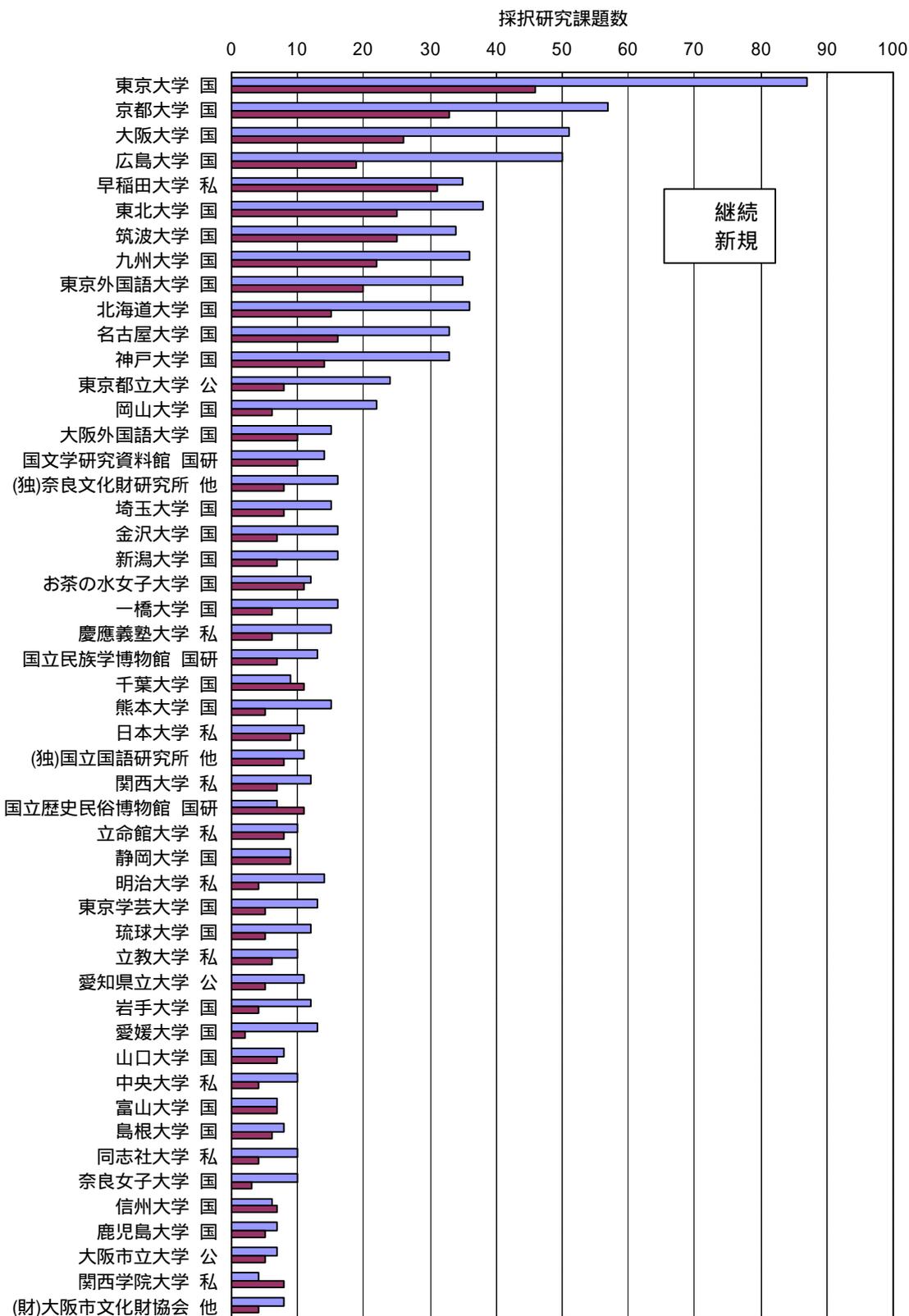


図 2 - 5 - 1 人文学の新規研究課題数および継続研究課題数 (2003 年度)

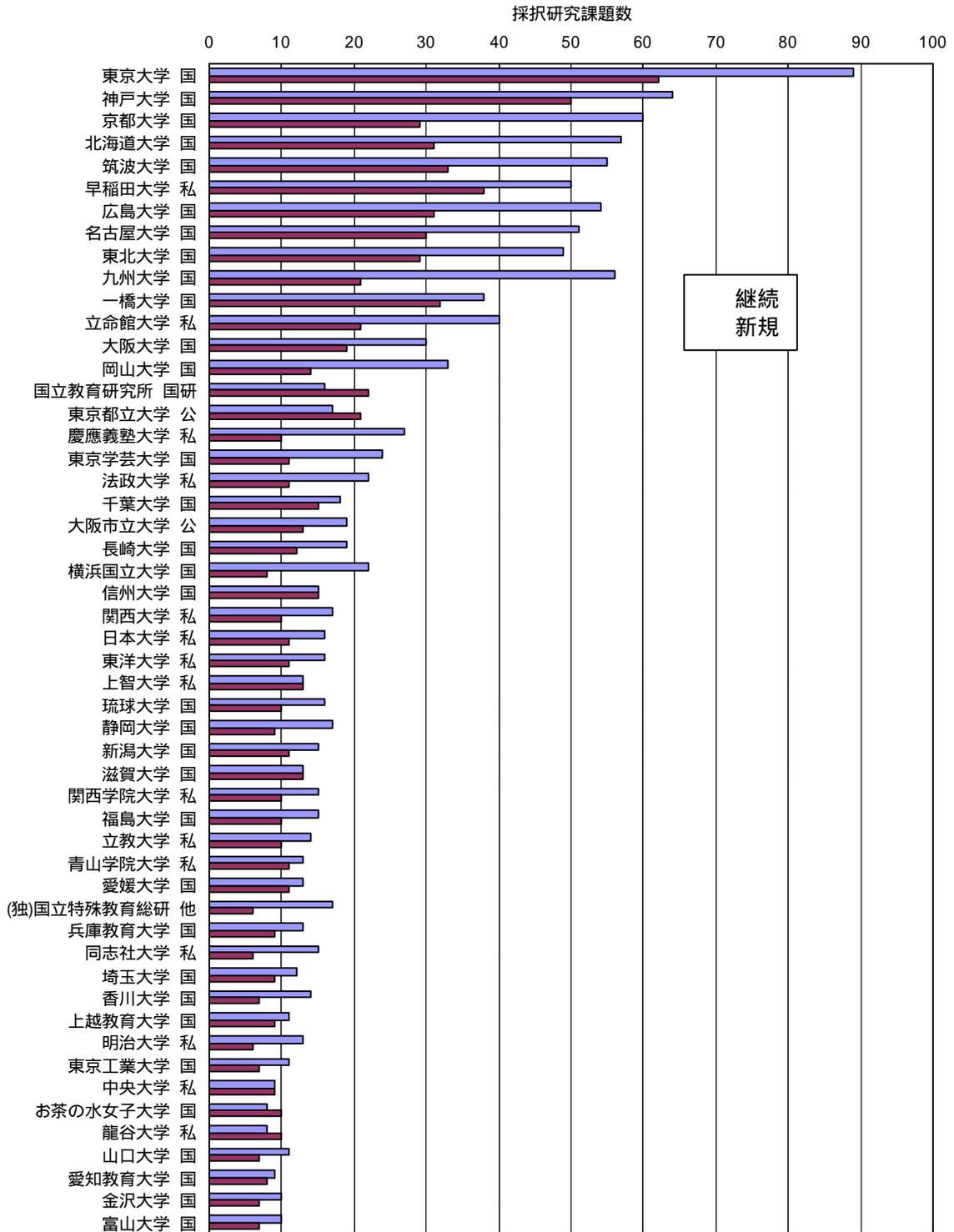


図 2 - 5 - 2 社会科学の新規研究課題数および継続研究課題数 (2003 年度)

2 . 分野別

2 - 1 人文学

人文学は基本的に旧分野コードの部：文学に対応する。2002 年度（平成 14 年度）からの継続課題から見る限り、旧分野コードの部：文学から移動しているものがほぼ 90%になる。人文学の中の哲学、文学、言語学、史学、人文地理学、文化人類学・民俗学の「分科」ごとの科学研究費補助金採択研究課題数を図 2 - 6 の円グラフに示す。

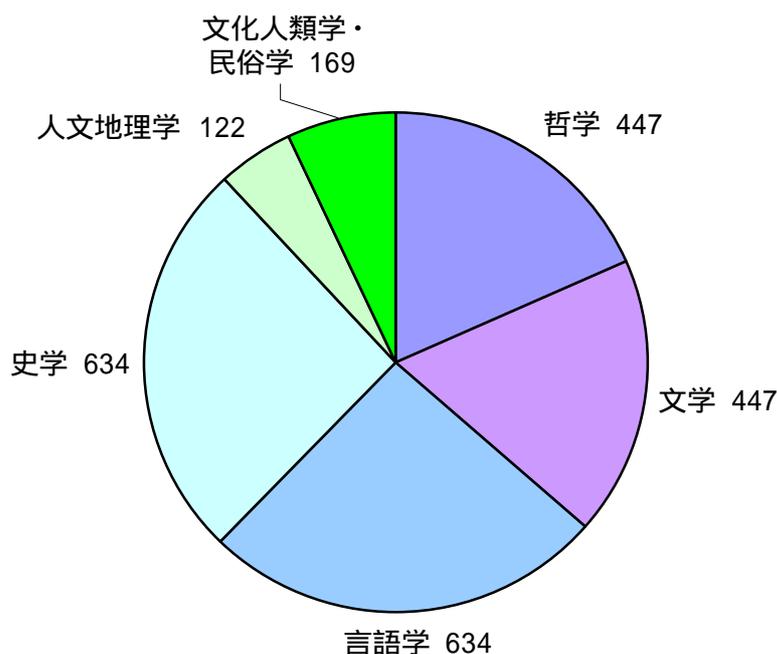


図 2 - 6 人文学「分科」別採択研究課題数（2003 年度）

この「分野」の大きな変更点は、旧研究コードの部：文学の中に混在していた文学と言語学を分離した点と、旧分科：心理学・社会学・教育学・文化人類学を「分科」としてそれぞれ独立させて分野：社会科学へ移行した点である。この「細目表」の変更による継続研究課題の旧研究コードから新研究コードへの移行の状況について「分科」別に「細目」レベルで示したものが、表 2 - 4 である。ただし、表 2 - 4 では、2002 年度（平成 14 年度）からの継続研究課題数が新「細目」で 10 件以下のものを省略している。表を見るとわかるように、旧「細目」の中国語・中国文学（細目番号：243）やその他の外国語・外国文学文学一般(含文学論・比較文学)（細目番号：247）のように、2つの分科にまたがって、それぞれ 10 件以上移行している細目もある。

以下、哲学、文学、言語学、史学、人文地理学、文化人類学・民俗学の各「分科」について、I 章で述べた方針にしたがって上位 30 位までを表にまとめ、表 2 - 5 - 1 および 2 - 5 - 2 に示す。表に対応した各「分科」の機関別の棒グラフを図 2 - 7 - 1 ~ 2 - 7 - 5 に示す。人文地理学は採択研究課題数が少ないので、棒グラフでは省略することとする。以下、順位 1 位の採択件数が 10 件以下の場合、棒グラフを省略することとする。

表 2 - 4 人文学の継続研究課題における主な旧研究コードの細目

2003 年度	継続研究課題の 2002 年度での主な旧研究コードの細目
哲学	部：文学，分科：哲学，細目：哲学 211、中国哲学 212、印度哲学(含仏教学)213、宗教学 214、倫理学 215、思想史 216、美学(含芸術諸学)217、美術史 218
文学	部：文学，分科：文学，細目：国文学 242、中国語・中国文学 243、仏語・仏文学 245、独語・独文学 246、その他の外国語・外国文学文学一般(含文学論・比較文学)247、西洋古典 249
言語学	部：文学，分科：文学，細目：国語学 241、英語・英米文学 244、中国語・中国文学 243、外国語・外国文学 247、言語学・音声学 248、 部：複合領域，分科：科学教育・教科教育学 714
史学	部：文学，分科：史学，細目：日本史 231、東洋史 232、西洋史 233、考古学(含先史学)234
人文地理学	部：複合領域，分科：地理学，細目：人文地理学 704
文化人類学・民俗学	部：文学，分科：心理学・社会学・教育学・文化人類学，細目：文化人類学(含民俗学)225

今回の「細目表」の改訂後の「分科」の分類は学問分野としてすっきりした形になっているため、採択研究課題数により各大学の研究活性度が明らかに見やすくなっている。しかし、図 2 - 6 等から明らかなように、哲学、文学、言語学、史学の「分科」に比べて、人文地理学、文化人類学・民俗学は採択研究課題数で史学・言語学の 4 分の 1、哲学・文学の 3 分の 1 と小さく、分科：哲学等の「細目」と同じ採択研究課題数規模となっている。このため、単年度のみでの採択研究課題数を用いた大学間の研究活性度の比較を行う場合は、統計的な意味が他の分科と異なる点に多少注意をする必要がある。

表 2 - 5 - 1 および 2 - 5 - 2 と図 2 - 7 - 1 ~ 図 2 - 7 - 5 で一目瞭然であるが、新しい「分野」では各「分科」が学問分野ごとにより整理されているので、それぞれの分野での各大学の研究活性度がかなりよく見える。分科：哲学では、東京大学、京都大学、大阪大学、東北大学と旧帝国大学時代から文学部を持つ大学が上位を占め、私立大学の早稲田大学が 5 位に位置している。分科：文学では、東京大学が 1 位ではあるが、2 位に国文学資料館が、3 位に早稲田大学が位置する。これに対して、分科：言語学では、東京外国語大学が 1 位に、筑波大学、広島大学が 4 位に、国立国語研究所が 6 位にランクされる。特徴的なのは、27 位に創設まもない立命館アジア太平洋大学が顔を出している点である。分科：史学では、東京大学、京都大学のほか各種の歴史・民俗学系の研究所が 30 位の範囲に数多く入っている。

また、「分科」別に 2002 年度(平成 14 年度)からの継続研究課題数と新規研究課題数を機関別に示す棒グラフも、図 2 - 8 - 1 ~ 2 - 8 - 5 に掲載した。このとき、掲載は総採択研究課題数順、すなわち図 2 - 7 - 1 ~ 2 - 7 - 5 と同じ順序とした。これらの図からは、「言語学」の東京外国語大学を除けば、総採択研究課題数と比較して、多少の順位の入れ替わりはあるものの特に大きく順位が入れ替わる点は見られない。

以上のように分野：人文学の新しい「分科」では、これまでの「細目」レベルの項目が「分科」となっている。人文地理学、文化人類学・民俗学のように「細目」に近い「分科」があるものの、研究分野がかなり整理され、それぞれの分野での各大学の研究活性度がよりわかりやすくなったといえる。

表2 - 5 - 1 人文学「分科」別採択研究課題数上位30位(2003年度)(1)

金額単位/千円

哲学					文学					言語学				
順位	種別	機関名	件数	金額	順位	種別	機関名	件数	金額	順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	東京大学	36	103,400	1	国	東京大学	33	78,500	1	国	東京外国語大学	30	62,800
2	国	京都大学	19	44,400	2	国研	国文学研究資料館	18	84,700	2	国	大阪大学	28	35,000
3	国	大阪大学	18	37,600	2	私	早稲田大学	18	26,300	3	国	東京大学	24	53,500
4	国	東北大学	16	50,200	4	国	大阪大学	15	20,300	4	国	筑波大学	20	32,900
5	私	早稲田大学	11	25,600	4	国	京都大学	15	18,800	4	国	広島大学	20	17,800
5	国	北海道大学	11	19,400	6	国	九州大学	13	20,700	6	他	(独)国立国語研究所	19	42,400
7	国	名古屋大学	9	16,500	6	国	広島大学	13	12,600	7	国	九州大学	17	18,800
7	国	広島大学	9	11,200	8	国	名古屋大学	11	18,600	8	国	名古屋大学	16	24,100
9	国	神戸大学	8	12,800	8	国	北海道大学	11	17,100	8	国	東北大学	16	18,800
9	国	九州大学	8	8,700	8	国	東京外国語大学	11	10,800	10	私	早稲田大学	14	16,800
11	国	東京芸術大学	7	28,700	11	国	神戸大学	10	17,100	11	国	京都大学	13	30,200
11	国	筑波大学	7	14,200	11	国	千葉大学	10	13,800	12	国	北海道大学	11	31,900
13	他	(独)国立博物館東京国立博物館	6	15,600	11	国	東北大学	10	11,200	12	公	東京都立大学	11	28,900
13	国	埼玉大学	6	8,900	14	私	慶應義塾大学	9	18,400	12	国	お茶の水女子大学	11	12,500
13	国	大阪教育大学	6	6,900	14	国	筑波大学	9	11,600	15	国	神戸大学	9	10,500
13	国	岩手大学	6	4,100	16	公	東京都立大学	8	8,100	15	国	大阪外国語大学	9	9,800
17	私	関西大学	5	6,600	17	私	立教大学	7	11,000	17	私	慶應義塾大学	7	12,000
17	私	同志社大学	5	3,200	18	私	中央大学	6	10,800	17	国	岩手大学	7	8,600
19	他	(独)文化財研究所東京文化財研究所	4	18,100	18	国	琉球大学	6	10,700	19	国	静岡大学	6	10,600
19	私	立教大学	4	14,400	18	私	日本大学	6	5,500	19	国	一橋大学	6	8,700
19	民研	東方研究会	4	11,400	21	国	大阪外国語大学	5	8,800	19	公	愛知県立大学	6	7,100
19	国	新潟大学	4	6,800	21	国	一橋大学	5	4,700	19	国	金沢大学	6	5,700
19	国	静岡大学	4	6,300	21	国	岡山大学	5	4,400	19	公	神戸市外国語大学	6	5,700
19	国	山形大学	4	4,400	21	国	東京学芸大学	5	4,000	19	国	山口大学	6	5,600
19	私	国学院大学	4	3,300	21	国	金沢大学	5	4,000	19	国	東京学芸大学	6	5,000
19	国	熊本大学	4	2,800	21	国	新潟大学	5	3,400	19	国	岡山大学	6	3,900
					27	国	埼玉大学	4	8,000	27	国	千葉大学	5	9,100
					27	私	青山学院大学	4	5,500	27	私	関西大学	5	5,400
					27	国	富山大学	4	4,900	27	国	富山大学	5	5,000
					27	国	信州大学	4	4,300	27	国	愛媛大学	5	4,700
					27	私	立命館大学	4	3,300	27	私	立命館アジア太平洋大学	5	4,200
					27	私	明治大学	4	3,000	27	私	明治大学	5	3,700
合計			447	840,800	合計			447	657,200	合計			634	938,600

表2 - 5 - 2 人文学「分科」別採択研究課題数上位30位(2003年度)(2)

金額単位/千円

史学					人文地理学					文化人類学・民俗学				
順位	種別	機関名	件数	金額	順位	種別	機関名	件数	金額	順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	東京大学	35	169,000	1	国	京都大学	7	31,400	1	国研	国立民族学博物館	16	52,000
2	他	(独)文化財研究所奈良文化財研究所	24	70,300	2	公	東京都立大学	6	12,200	2	国	京都大学	12	73,300
2	国	京都大学	24	62,800	3	国	神戸大学	5	12,100	3	国研	国立歴史民俗博物館	7	15,400
4	私	早稲田大学	21	40,600	4	国	広島大学	4	14,000	4	国	東京外国語大学	6	32,100
5	国	広島大学	18	34,300	4	国	奈良女子大学	4	13,800	4	国	筑波大学	6	15,100
6	国	九州大学	16	31,000	4	国	筑波大学	4	11,800	4	国	東北大学	6	10,500
7	国	筑波大学	13	24,000	4	公	大阪市立大学	4	11,000	7	国	広島大学	5	7,100
8	国	大阪大学	12	23,700	4	国	名古屋大学	4	5,500	8	国	神戸大学	4	13,600
8	国	北海道大学	12	20,500	4	国	埼玉大学	4	3,700	8	国	北海道大学	4	5,500
8	国	東北大学	12	20,000	10	私	法政大学	3	9,600	10	国	一橋大学	3	8,800
8	国	岡山大学	12	15,100	10	国	金沢大学	3	9,200	10	私	南山大学	3	8,400
12	他	奈良県立橿原考古学研究所	11	36,000	10	国	東北大学	3	5,000	10	国	東京大学	3	7,100
12	国	神戸大学	11	23,600	13	国	大阪大学	2	10,700	10	私	京都文教大学	3	6,300
12	他	(財)大阪市文化財協会	11	9,900	13	国	富山大学	2	6,700	10	国	静岡大学	3	6,000
15	国	大阪外国語大学	10	11,300	13	公	大阪府立大学	2	6,300	10	国	弘前大学	3	5,600
16	国	熊本大学	9	22,100	13	私	関西大学	2	6,200	10	他	北海道開拓記念館	3	3,100
16	国	新潟大学	9	17,500	13	私	立命館大学	2	4,900	10	私	日本女子大学	3	2,300
18	国研	国立歴史民俗博物館	8	25,200	13	国	東京大学	2	3,400	18	国	埼玉大学	2	17,600
19	国	金沢大学	7	16,800	13	国	三重大学	2	2,000	18	国	名古屋大学	2	8,700
19	国	名古屋大学	7	11,600	13	国	九州大学	2	1,900	18	国	九州大学	2	6,400
19	他	(財)元興寺文化財研究所	7	9,000	13	国	北海道大学	2	1,700	18	私	国学院大学	2	5,900
19	国	鳥根大学	7	7,800	13	国	岩手大学	2	1,500	18	私	関西学院大学	2	5,000
19	私	日本大学	7	7,100						18	国	大阪大学	2	4,100
24	国	東京外国語大学	6	25,700						18	国	熊本大学	2	4,000
24	国研	国文学研究資料館	6	21,400						18	私	関西外国語大学	2	2,300
24	私	明治大学	6	16,800						18	私	上智大学	2	2,200
24	私	関西大学	6	15,700						18	国	新潟大学	2	1,500
24	国	一橋大学	6	10,700										
24	私	立命館大学	6	10,700										
24	国	愛媛大学	6	9,800										
24	国	琉球大学	6	8,200										
24	国	お茶の水女子大学	6	6,900										
24	国	埼玉大学	6	6,200										
24	他	北海道開拓記念館	6	5,800										
		合計	634	1,440,500			合計	122	260,400			合計	169	464,600

注：採択研究課題数1件の機関名は省略。

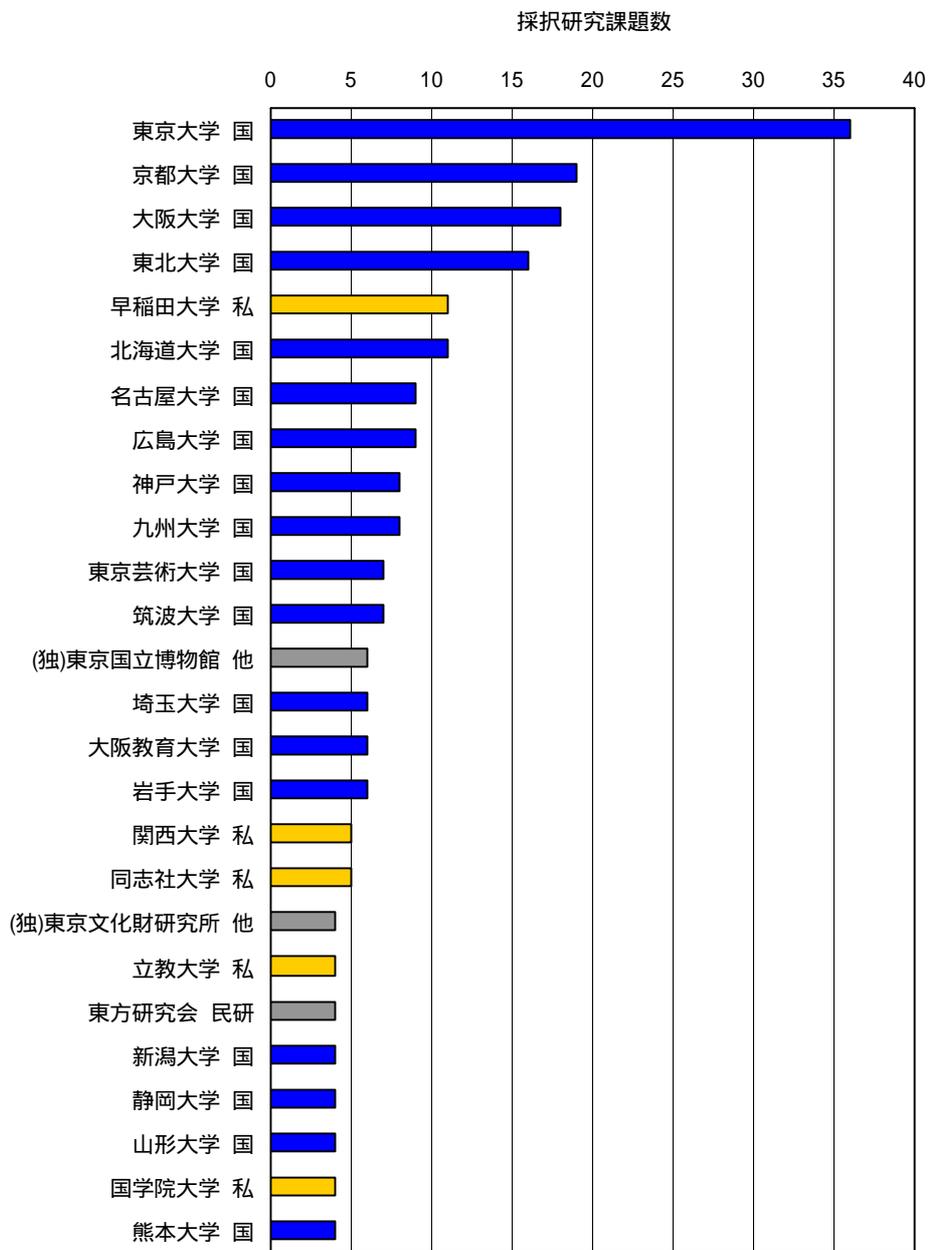


図 2 - 7 - 1 哲学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

採択研究課題数

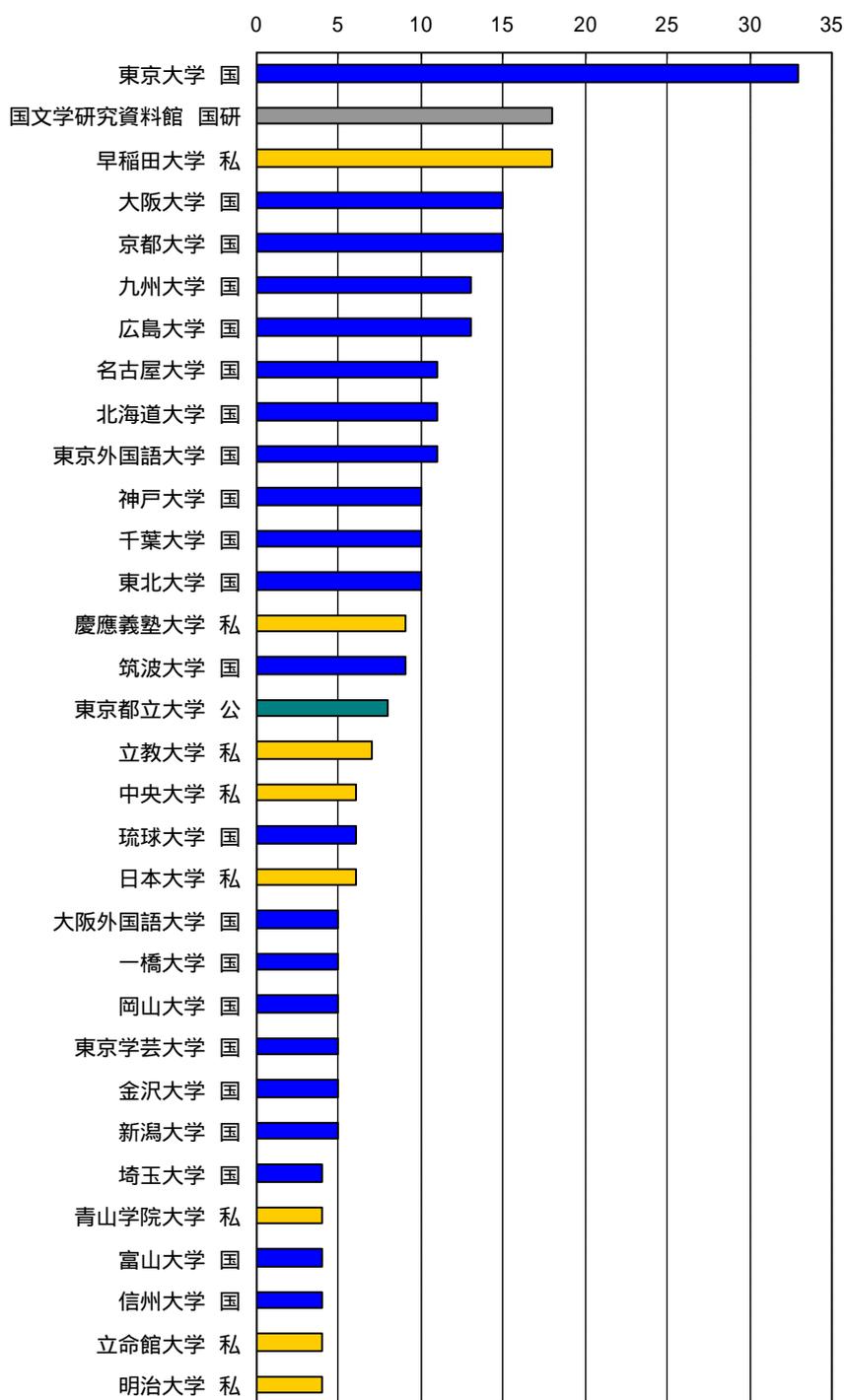


図 2 - 7 - 2 文学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

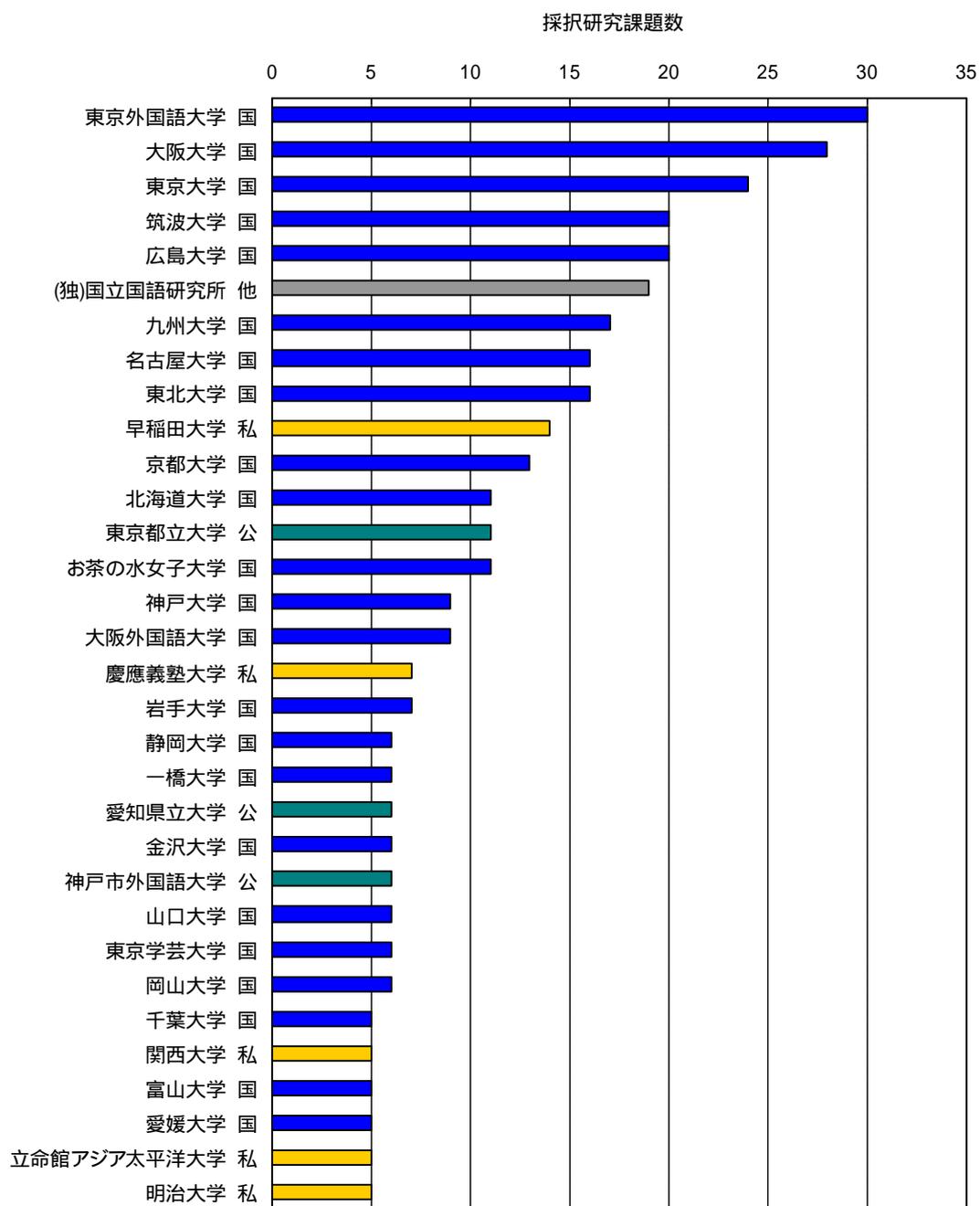


図 2 - 7 - 3 言語学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

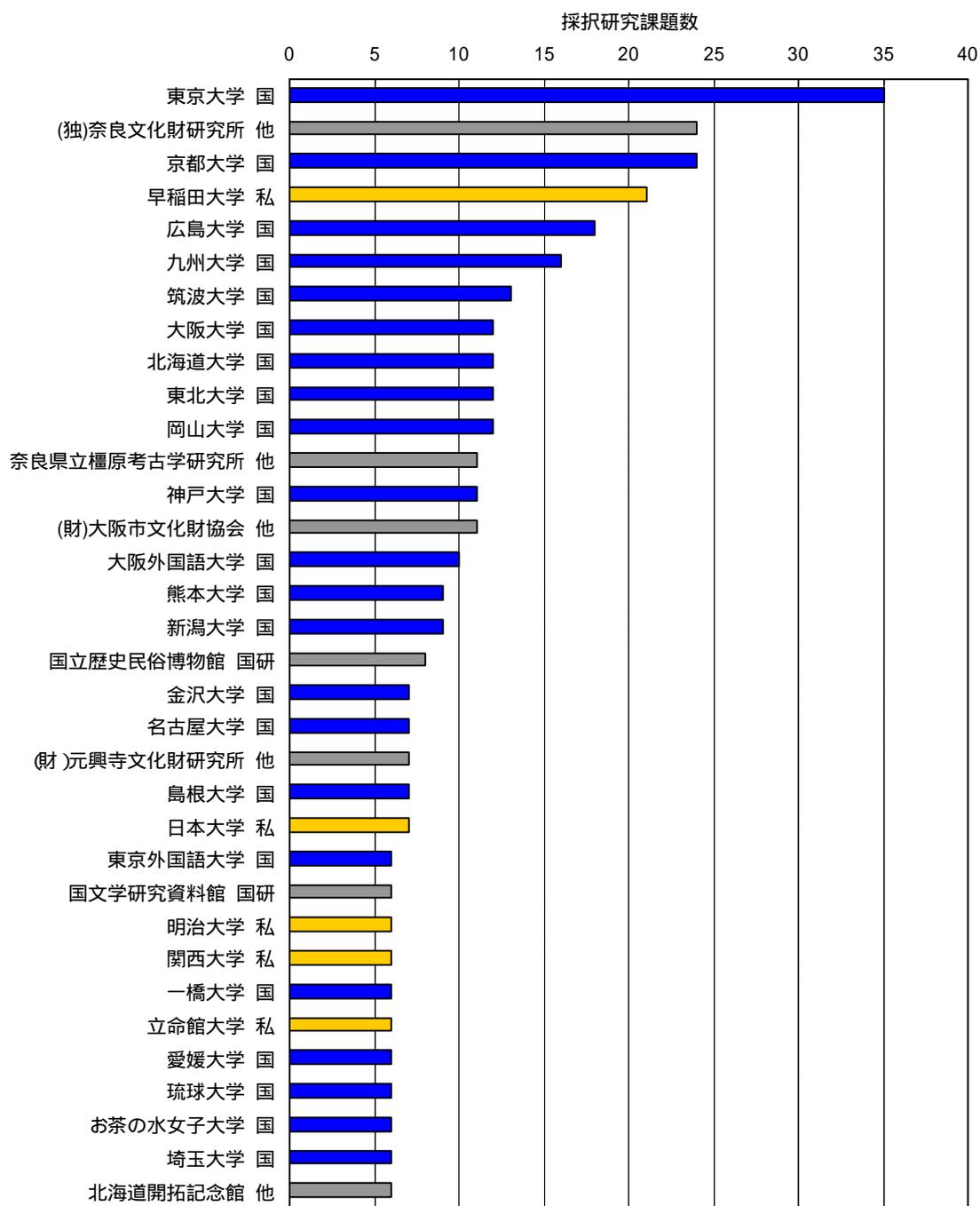


図 2 - 7 - 4 史学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

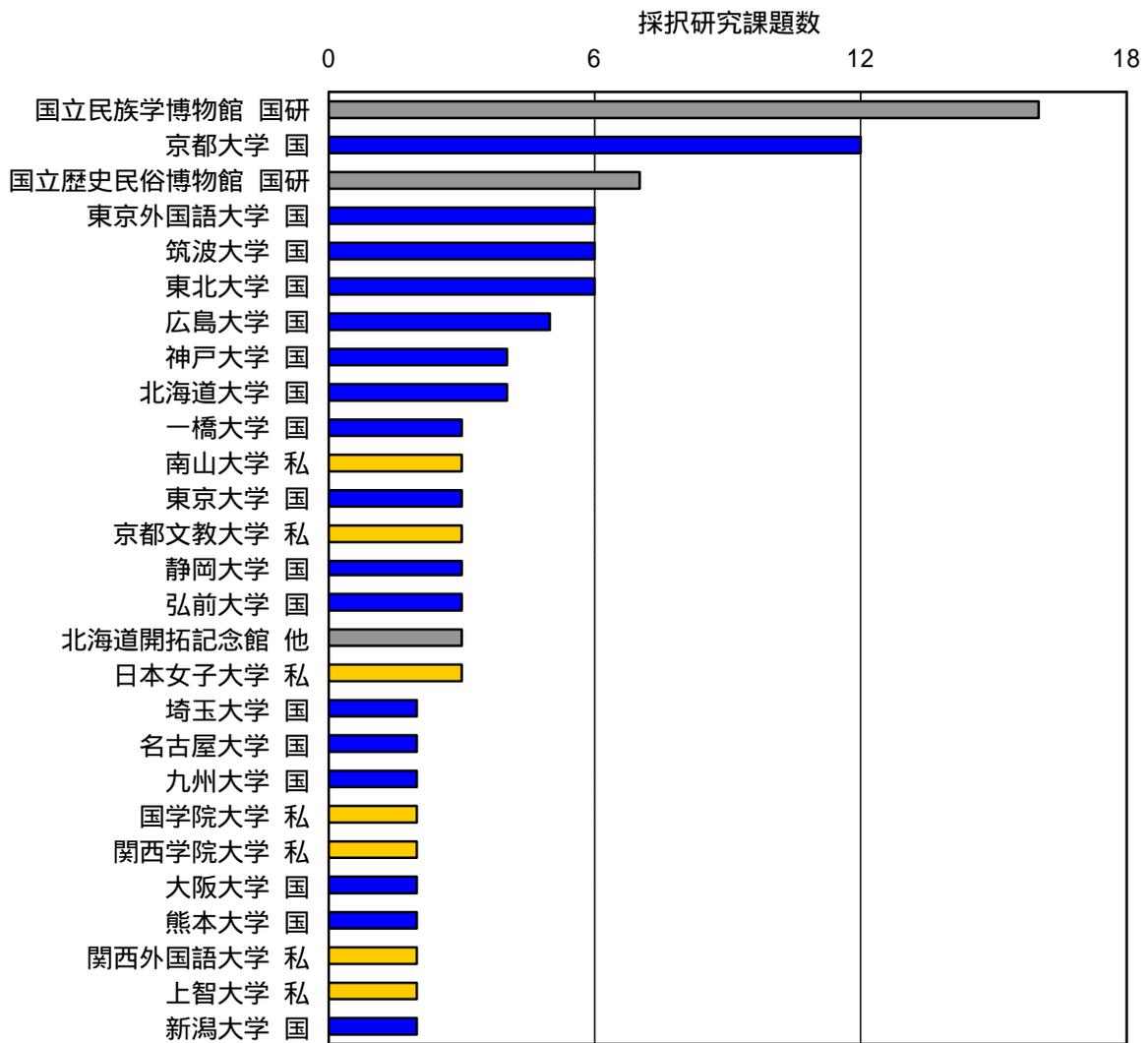


図 2 - 7 - 5 文化人類学・民俗学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

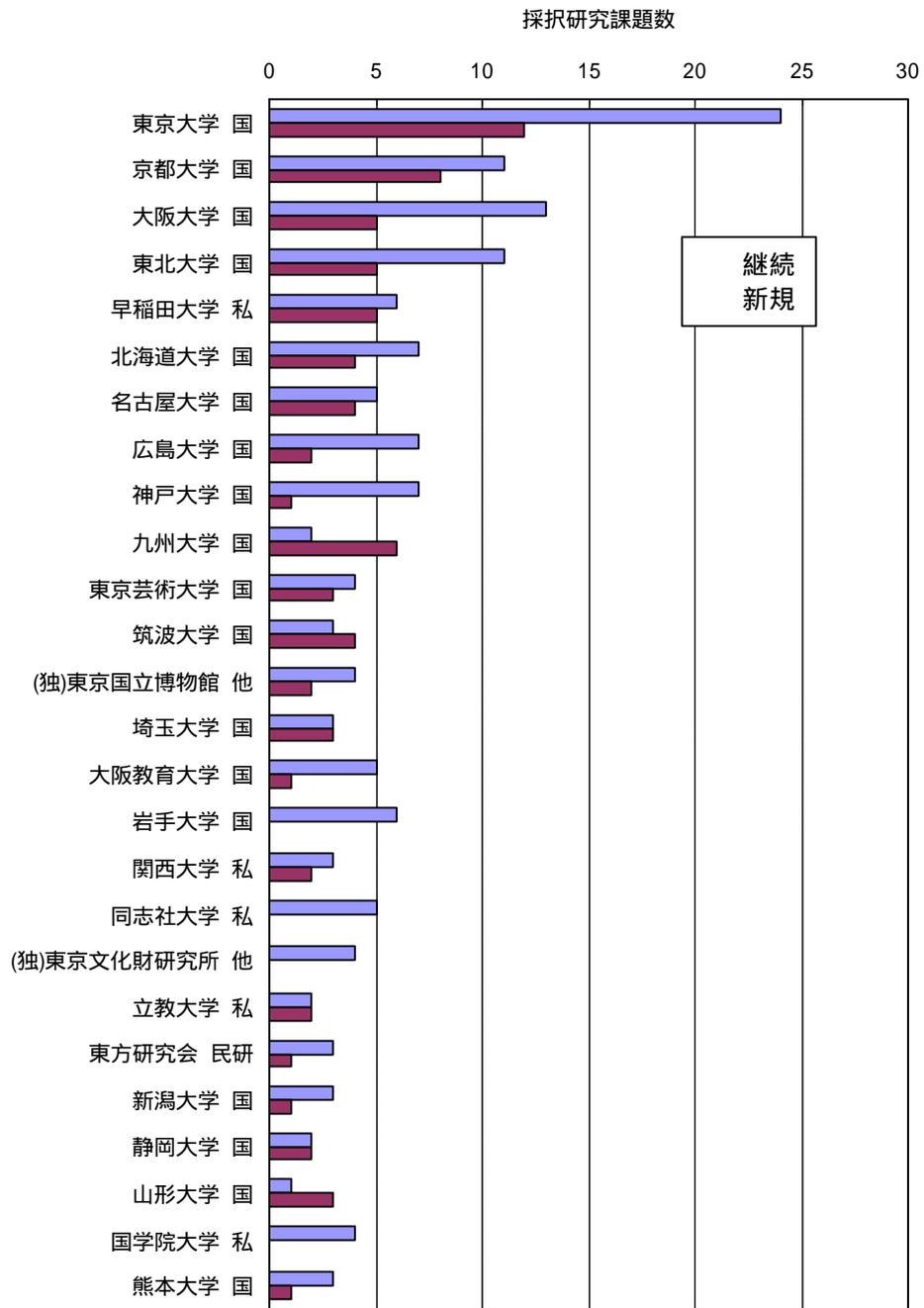


図 2 - 8 - 1 哲学の新規研究課題数および継続研究課題数 (2003 年度)

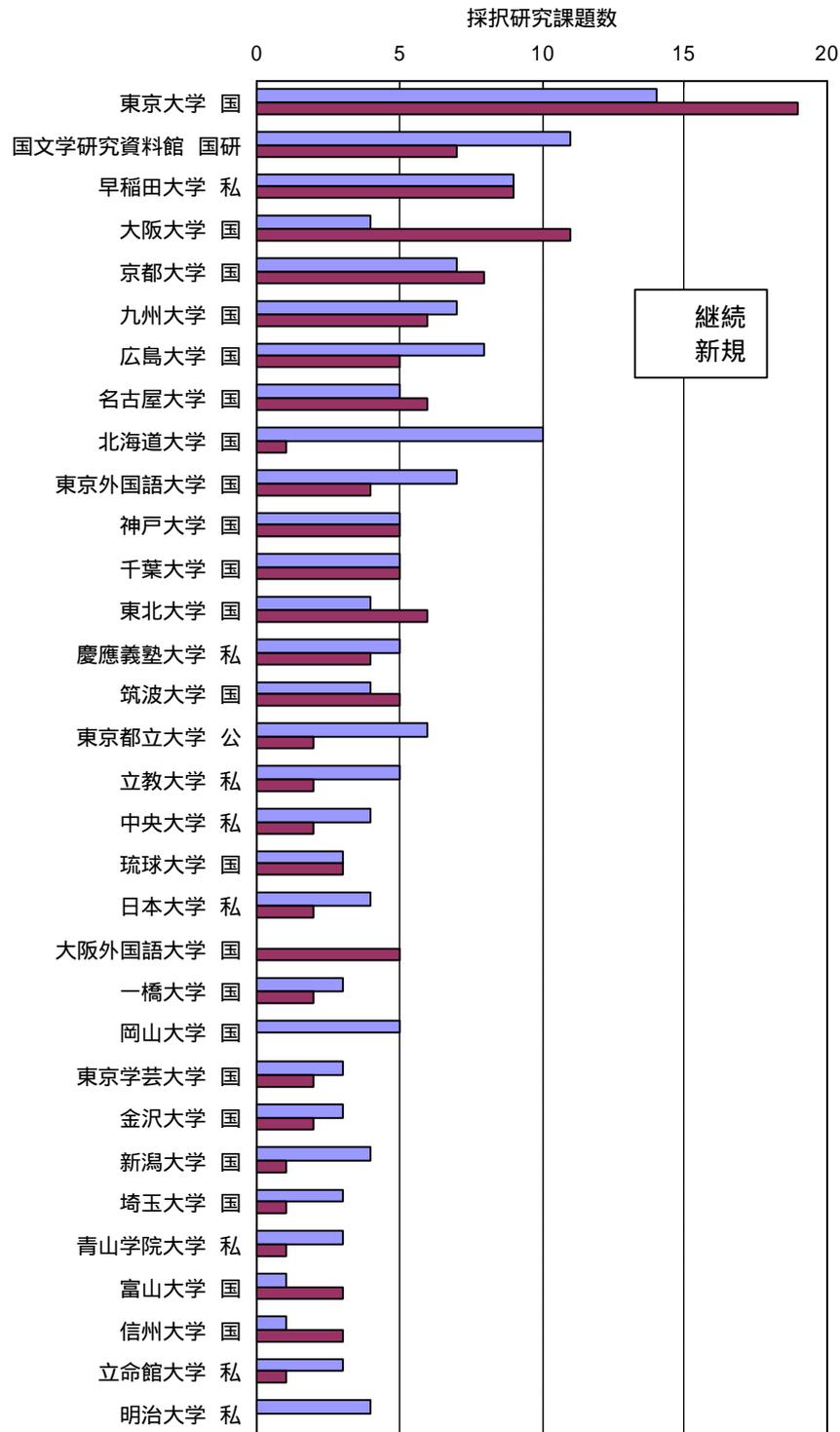


図 2 - 8 - 2 文学の新規研究課題数および継続研究課題数 (2003 年度)

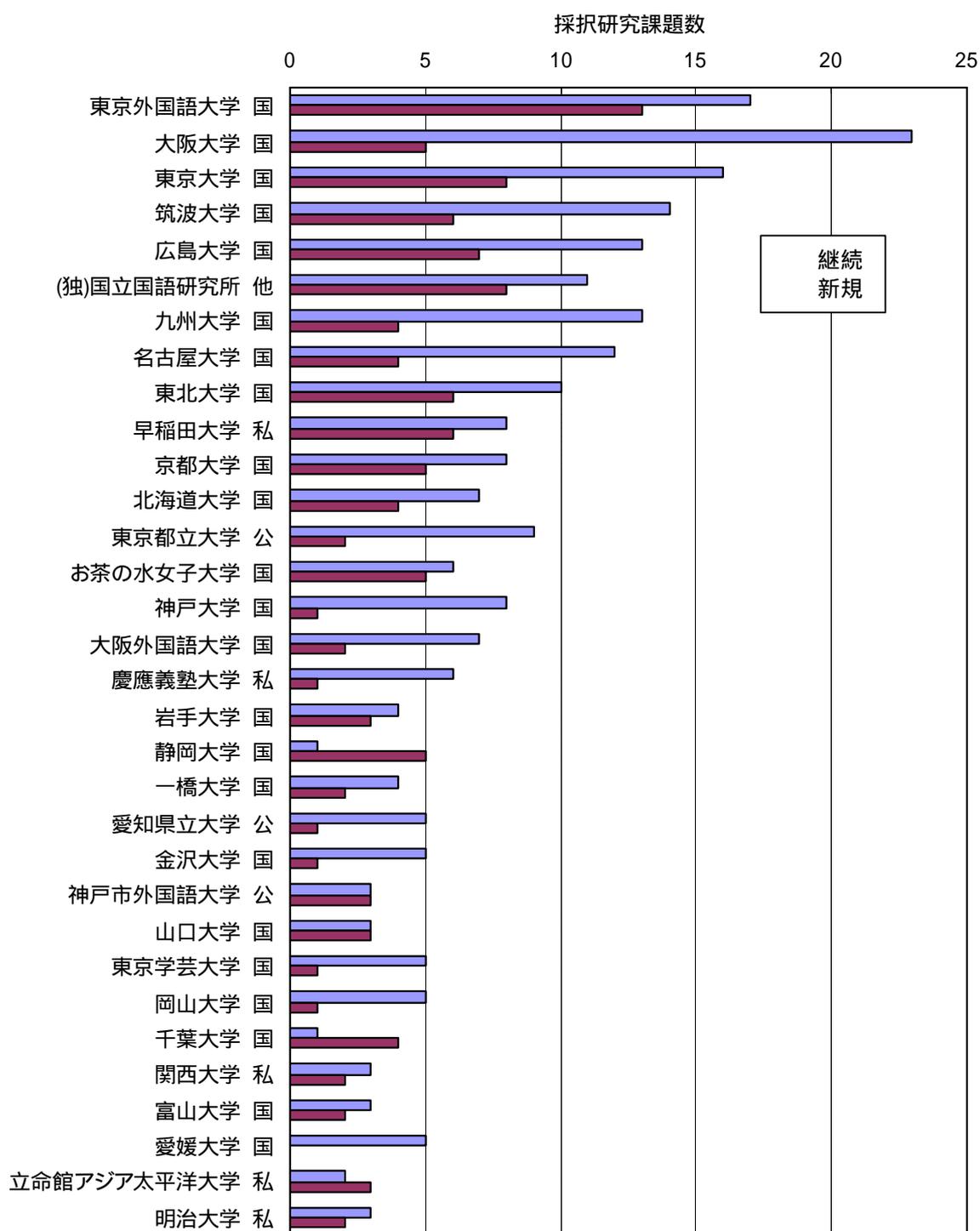


図 2 - 8 - 3 言語学の新規研究課題数および継続研究課題数 (2003 年度)

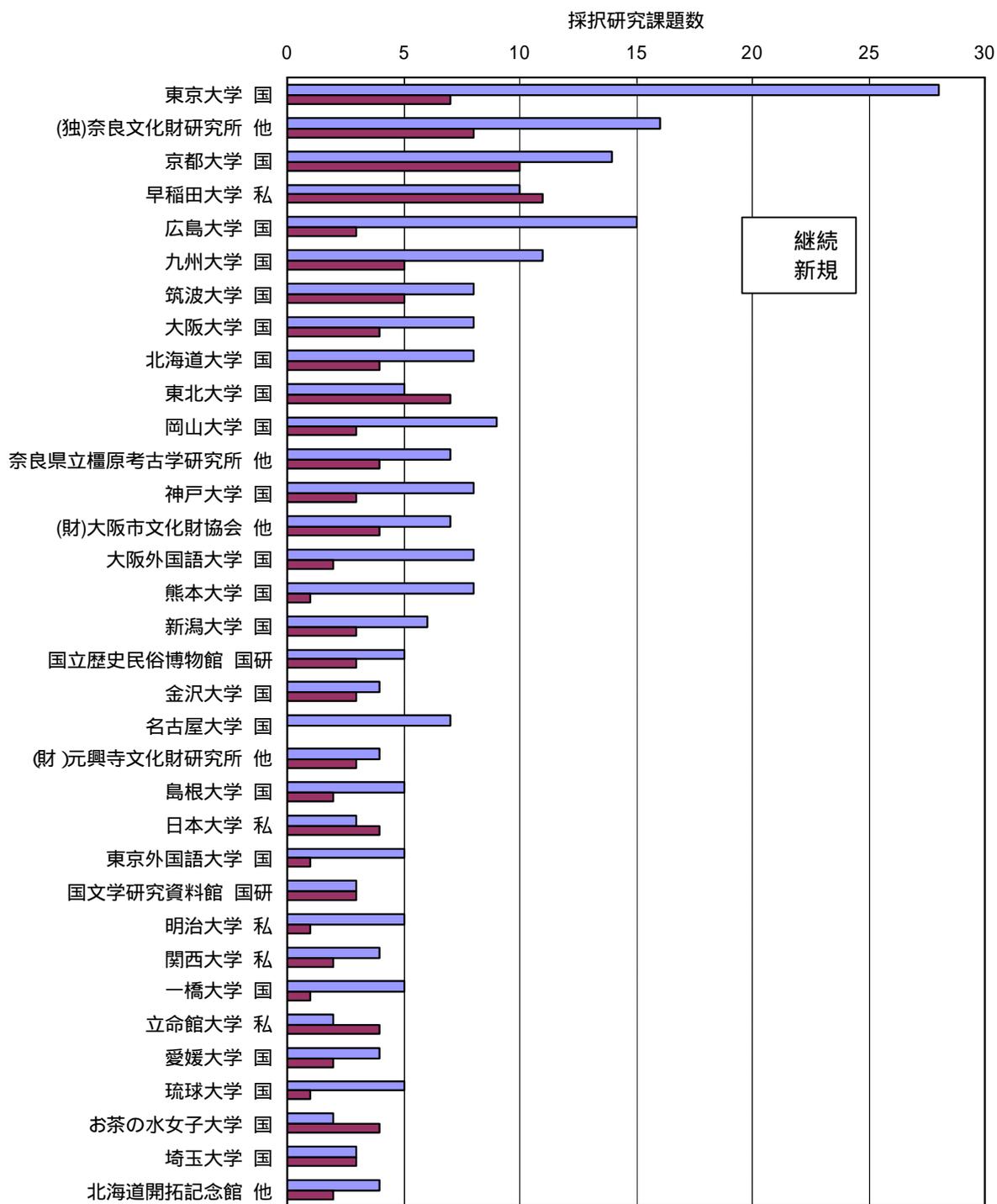


図 2 - 8 - 4 史学の新規研究課題数および継続研究課題数 (2003 年度)

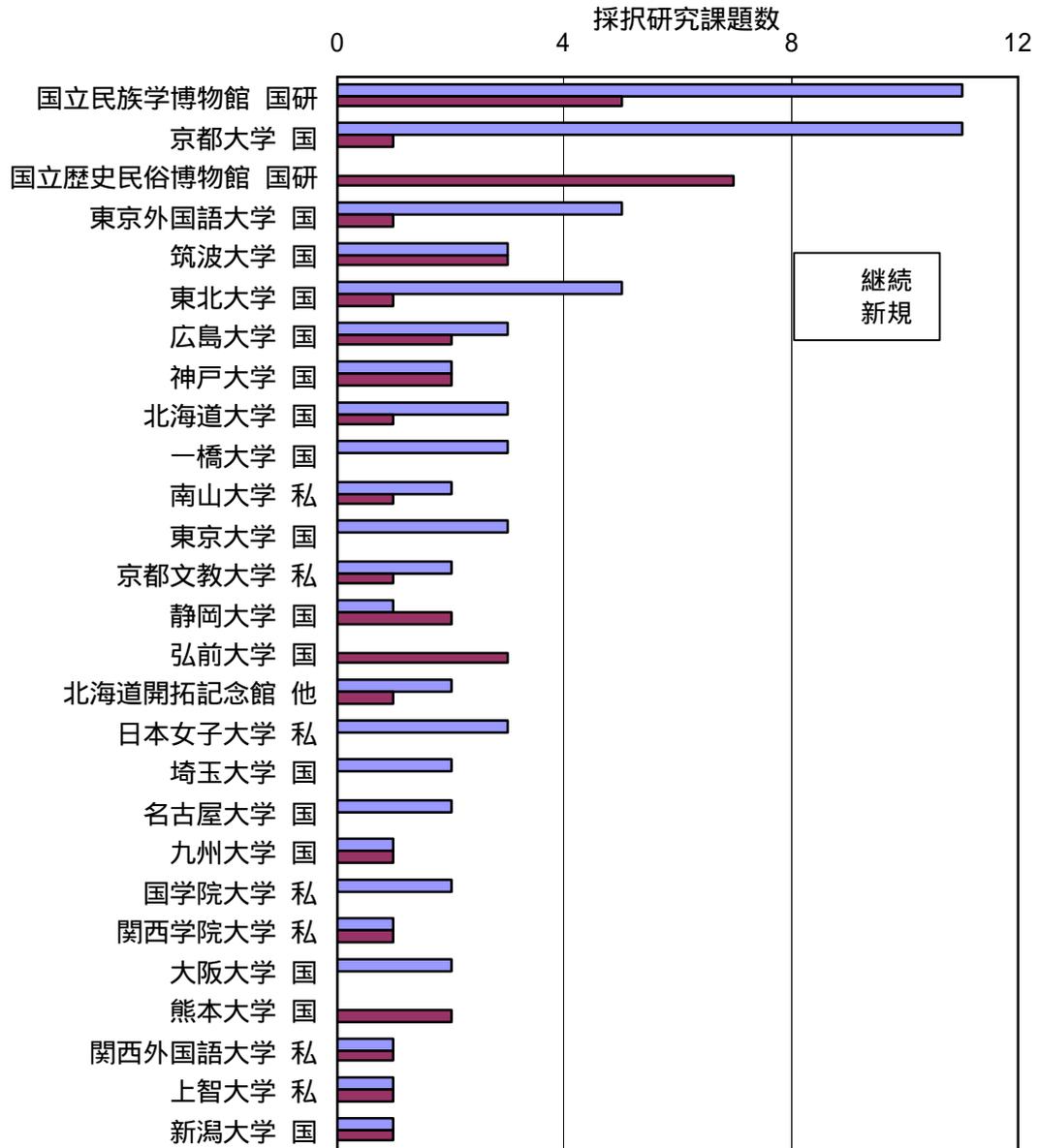


図 2 - 8 - 5 文化人類学・民俗学の新規研究課題数および継続研究課題数（2003 年度）

2 - 2 社会科学

分野：社会科学は、旧研究コードの部：法学、経済学を中心として、法学を法学と政治学に、経済学を経済学と経営学に分離すると同時に、旧研究コードの部：文学の分科：心理学・社会学・教育学・文化人類学をそれぞれ分科として独立させ、整理した結果、非常にすっきりした形になっている。

分野：社会科学の中の法学、政治学、経済学、経営学、社会学、心理学、教育学の「分科」ごとの採択研究課題数を図2 - 9の円グラフに示す。分野：人文学に比べ、分科：政治学の206件を除けば、分科：教育学の768件から分科：法学の430件までほぼ同じような採択研究課題数の分布を示しており、大きな偏りが無い。

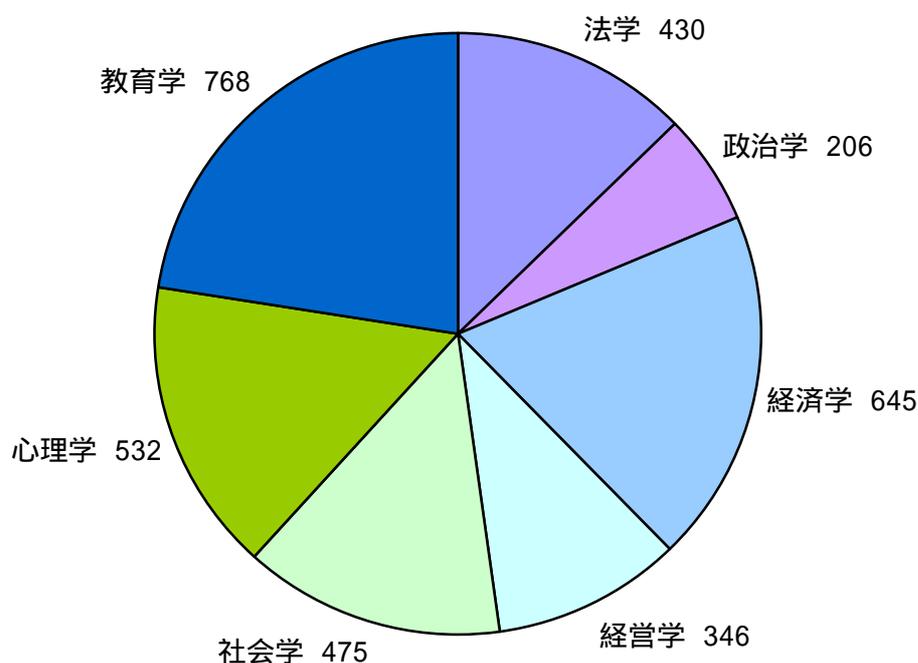


図2 - 9 社会科学「分科」別採択研究課題数（2003年度）

この「分野」の大きな変更点は、前節の2 - 1人文学で述べたように、旧研究コードの部：文学の中の分科：心理学・社会学・教育学・文化人類学を「分科」としてそれぞれ独立させて、分野：社会科学へ移行した点である。

この「細目表」の変更による継続研究課題の旧研究コードから新研究コードへの移行の状況について「分科」別に「細目」レベルで示したものが、表2 - 6である。ただし、表2 - 6でも、表2 - 4と同様に2002年度（平成14年度）からの継続研究課題数が新「細目」で10件以下のものを省略している。

以下、法学、政治学、経済学、経営学、社会学、心理学、教育学の各「分科」について、I章で述べた方針にしたがって上位30位までを表にまとめ、表2 - 7 - 1～2 - 7 - 3に示す。表に対応した各「分科」の機関別の棒グラフを図2 - 10 - 1～2 - 10 - 7に示す。

表 2 - 6 社会科学の継続研究課題における主な旧研究コードの細目

2003 年度	継続研究課題の 2002 年度での主な旧研究コードの細目
法学	部：法学，分科：基礎法学 261、公法学 262、国際法学 263、民法法学 264、社会学 265、刑法法学 266
政治学	部：法学，分科：政治学 267
経済学	部：経済学，分科：経済理論 271、経済統計学 272、経済政策(含経済事情)273、経済史 274、財政学・金融論 275
経営学	部：経済学，分科：商学 276、経営学 277、会計学 278
社会学	部：文学，分科：心理学・社会学・教育学・文化人類学，細目：社会学（含社会福祉関係）223
心理学	部：文学，分科：心理学・社会学・教育学・文化人類学，細目：実験心理学 221、教育社会系心理学 222
教育学	部：文学，分科：心理学・社会学・教育学・文化人類学，細目：教育学 224、部：複合領域，分科：科学教育・教科教育学，細目：教科教育 713

また、「分科」別に 2002 年度（平成 14 年度）からの継続研究課題数と新規研究課題数を機関別に示す棒グラフも、図 2 - 11 - 1 ~ 2 - 11 - 7 に掲載した。このとき、人文学と同様に、掲載は総採択研究課題数順、すなわち図 2 - 10 - 1 ~ 2 - 10 - 7 と同じ順序とした。

分野：社会科学でも、ほぼ人文学と同じような傾向が見てとれる。まず、分科：法学、政治学では、旧研究コードの部：法学と同じくやはり東京大学が 1 位であるが、早稲田大学が 4 位に、立命館大学が 6 ないし 5 位に位置し、10 位以下には多くの公立・私立大学がランクされる。

分科：経済学、経営学では、旧研究コードの部：経済学と同じくやはり一橋大学、神戸大学が上位を占める。しかし、2002 年度（平成 14 年度）からの継続研究課題と新規研究課題とを比べると、分科：経済学で東京大学が上位に進出すること、逆に、東北大学、九州大学、広島大学が順位を下げていることが、目立っている。これに対して、分科：経営学では、それほどの順位の変動が見えていない。

分科：社会学では、私立大学の関西学院大学、東洋大学が 5、6 位にランクされていること、日本女子大学、大阪府立大学が、2002 年度（平成 14 年度）からの継続研究課題に比べ新規研究課題で採択件数を増やしていることが、目立つ。

分科：心理学の分野は、旧研究コードでは教育学と混在してその姿がよく見えなかった。新研究コードでは、東京都老人総合研究所、東京都医学研究機構、広島国際大学や国立教育系大学が 30 位以内に数多くランクされているのが、特徴的である。

分科：教育学では、国立教育研究所、国立特殊教育総合研究所等の教育系研究所や、広島大学、筑波大学のような旧文理大学が、上位に位置している。2002 年度までの旧研究コードでは姿が見えなかった国立教育系大学が、さすがにいくつか姿を現している。

表2 - 7 - 1 社会科学「分科」別採択研究課題数上位30位(2003年度)(1)

金額単位/千円

法学					政治学				
順位	種別	機関名	件数	金額	順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	東京大学	44	77,200	1	国	東京大学	17	39,400
2	国	北海道大学	33	82,300	2	国	神戸大学	14	28,400
3	国	神戸大学	24	51,900	3	国	北海道大学	11	40,000
4	国	九州大学	19	40,300	4	私	早稲田大学	10	29,400
4	私	早稲田大学	19	16,700	5	国	京都大学	8	22,100
6	国	京都大学	16	32,100	5	私	立命館大学	8	10,000
6	私	立命館大学	16	31,700	7	国	名古屋大学	6	16,200
6	国	東北大学	16	26,200	7	国	東北大学	6	8,600
9	国	名古屋大学	14	22,100	9	国	琉球大学	5	17,900
10	国	岡山大学	13	14,900	9	国	筑波大学	5	14,700
11	国	千葉大学	9	20,000	9	国	九州大学	5	5,400
11	国	広島大学	9	11,900	9	公	東京都立大学	5	5,000
13	国	大阪大学	8	19,900	13	国	大阪大学	4	10,800
13	国	新潟大学	8	17,200	13	公	大阪市立大学	4	9,800
13	国	一橋大学	8	11,000	13	私	法政大学	4	8,200
16	公	東京都立大学	7	11,700	16	国	東京外国語大学	3	9,300
16	私	立教大学	7	9,100	16	国	一橋大学	3	7,000
16	国	福島大学	7	8,400	16	私	同志社大学	3	5,700
19	私	法政大学	6	6,800	16	私	上智大学	3	5,100
20	国	筑波大学	5	9,800	16	国	広島大学	3	4,700
20	国	熊本大学	5	5,200	16	公	島根県立大学	3	3,700
20	私	龍谷大学	5	4,800	16	私	明治大学	3	2,800
23	国	横浜国立大学	4	10,400	23	公	静岡県立大学	2	7,800
23	国	長崎大学	4	4,900	23	国	千葉大学	2	7,500
23	国	香川大学	4	4,400	23	私	山梨学院大学	2	6,600
23	国	三重大学	4	3,900	23	私	名城大学	2	2,300
23	国	島根大学	4	3,300	23	私	日本大学	2	2,200
28	私	上智大学	3	15,500	23	国	長崎大学	2	2,000
28	私	中央大学	3	10,000	23	私	関西大学	2	1,900
28	私	慶應義塾大学	3	7,700	23	私	慶應義塾大学	2	1,400
28	国	鹿児島大学	3	6,900	23	私	立教大学	2	1,400
28	私	帝塚山大学	3	6,800	23	私	東海大学	2	1,100
28	私	明治大学	3	2,700					
合計			430	749,400	合計			206	424,300

表2 - 7 - 2 社会科学「分科」別採択研究課題数上位30位(2003年度)(2)

金額単位/千円

経済学					経営学				
順位	種別	機関名	件数	金額	順位	種別	機関名	件数	金額
1	国	一橋大学	38	94,400	1	国	神戸大学	22	67,400
2	国	東京大学	36	113,400	2	私	早稲田大学	13	24,200
3	国	神戸大学	29	37,200	3	国	一橋大学	12	32,900
4	国	大阪大学	20	51,600	4	私	日本大学	11	13,800
5	国	京都大学	19	43,100	5	国	東京大学	10	25,900
6	国	筑波大学	18	37,600	5	私	関西大学	10	16,500
7	国	名古屋大学	17	35,000	7	国	京都大学	9	11,100
7	国	東北大学	17	34,500	8	国	筑波大学	8	11,100
7	国	横浜国立大学	17	24,200	8	国	香川大学	8	7,400
10	国	九州大学	16	20,100	8	私	明治大学	8	6,000
11	私	立命館大学	14	25,900	11	国	小樽商科大学	7	8,000
12	私	早稲田大学	12	19,100	12	国	広島大学	6	13,700
12	国	岡山大学	12	10,700	12	国	横浜国立大学	6	13,200
14	私	慶應義塾大学	11	35,900	12	私	慶應義塾大学	6	13,000
14	公	大阪市立大学	11	20,400	12	私	中央大学	6	12,100
14	国	北海道大学	11	19,300	12	国	北海道大学	6	9,200
17	国	広島大学	9	13,000	12	国	名古屋大学	6	6,200
17	公	東京都立大学	9	12,800	18	国	東京工業大学	5	28,700
17	国	長崎大学	9	12,000	18	私	青山学院大学	5	13,500
17	私	青山学院大学	9	10,000	18	私	立教大学	5	9,400
21	私	法政大学	8	13,600	18	国	岡山大学	5	5,000
21	国	滋賀大学	8	13,100	18	国	富山大学	5	4,900
21	公	名古屋市立大学	8	8,900	23	私	立命館アジア太平洋大学	4	10,400
24	私	上智大学	7	11,800	23	公	大阪市立大学	4	7,800
24	国	信州大学	7	7,700	23	公	高崎経済大学	4	7,500
24	国	埼玉大学	7	5,900	23	公	神戸商科大学	4	4,900
27	私	関西学院大学	6	14,300	23	私	東洋大学	4	4,500
27	国	小樽商科大学	6	5,300	23	国	長崎大学	4	4,300
29	私	中央大学	5	13,800	23	私	京都産業大学	4	3,900
29	国	静岡大学	5	10,200	23	国	新潟大学	4	3,800
29	私	関西大学	5	8,200	23	私	阪南大学	4	3,400
29	私	東北学院大学	5	8,100					
29	私	東洋大学	5	7,000					
29	国	政策研究大学院大学	5	6,600					
29	国	和歌山大学	5	6,500					
29	国	香川大学	5	6,200					
29	公	神戸商科大学	5	6,100					
29	国	山口大学	5	5,200					
29	私	京都産業大学	5	4,400					
29	国	富山大学	5	4,100					
合計			645	1,153,100	合計			346	620,000

表2 - 7 - 3 社会科学「分科」別採択研究課題数上位30位(2003年度)(3)

金額単位/千円

社会学					心理学					教育学				
順位	種別	機関名	件数	金額	順位	種別	機関名	件数	金額	順位	種別	機関名	件数	金額
1	私	早稲田大学	15	37,100	1	国	京都大学	25	51,800	1	国研	国立教育研究所	38	82,100
2	国	東京大学	14	59,700	2	国	広島大学	19	35,900	1	国	広島大学	38	61,100
3	私	立命館大学	12	34,300	3	国	九州大学	18	48,000	3	国	筑波大学	34	79,500
4	国	東北大学	10	43,400	4	国	名古屋大学	17	40,000	4	国	東京学芸大学	24	33,600
5	私	関西学院大学	9	23,600	5	国	東京大学	14	40,400	5	他	(独)国立特殊教育総合研究所	20	36,900
5	私	東洋大学	9	22,500	5	国	東北大学	14	20,300	6	国	上越教育大学	17	29,500
7	国	北海道大学	8	22,400	7	国	筑波大学	13	23,900	6	国	兵庫教育大学	17	23,700
7	私	法政大学	8	13,300	8	私	早稲田大学	11	17,300	8	国	東京大学	16	31,500
9	私	慶應義塾大学	7	42,300	9	国	北海道大学	10	20,900	9	国	名古屋大学	15	31,400
9	私	立教大学	7	25,300	9	私	広島国際大学	10	12,900	10	国	愛知教育大学	14	24,000
9	私	日本女子大学	7	11,600	9	国	神戸大学	10	12,800	11	国	愛媛大学	13	12,400
9	公	東京都立大学	7	9,200	12	国	信州大学	9	9,100	12	国	東北大学	12	23,900
13	国	神戸大学	6	27,600	12	国	千葉大学	9	6,900	12	国	鳴門教育大学	12	12,400
13	公	大阪市立大学	6	21,600	14	国	東京学芸大学	8	13,700	14	国	九州大学	11	32,400
13	私	関西大学	6	20,100	15	私	慶應義塾大学	7	16,600	14	国	岡山大学	11	7,800
13	国	名古屋大学	6	11,800	15	私	東洋大学	7	12,500	16	国	静岡大学	9	15,900
13	公	大阪府立大学	6	11,800	15	私	立命館大学	7	12,400	16	国	北海道大学	9	15,300
13	私	広島電機大学	6	10,500	15	国	大阪大学	7	8,900	16	国	長崎大学	9	14,200
19	私	上智大学	5	22,600	19	国	お茶の水女子大学	6	17,700	16	国	京都教育大学	9	13,500
19	私	同志社大学	5	11,200	19	私	日本大学	6	10,600	16	国	琉球大学	9	11,300
19	国	大阪大学	5	10,300	19	他	(財)東京都老人総合研究所	6	8,400	16	国	信州大学	9	11,100
19	私	大妻女子大学	5	9,100	19	他	(財)東京都医学研究機構	6	5,900	16	国	神戸大学	9	10,500
19	私	東海大学	5	8,600	23	国	岡山大学	5	14,800	23	私	早稲田大学	8	16,700
19	国	筑波大学	5	7,600	23	私	中京大学	5	13,100	23	国	京都大学	8	13,500
19	国	九州大学	5	7,400	23	国	福岡教育大学	5	7,800	23	国	奈良教育大学	8	10,400
19	国	愛媛大学	5	5,000	23	公	東京都立大学	5	7,500	23	国	千葉大学	8	9,800
19	国	信州大学	5	4,400	23	国	大阪教育大学	5	6,800	23	国	滋賀大学	8	9,300
28	国	奈良女子大学	4	16,000	23	国	金沢大学	5	6,000	28	国	茨城大学	7	10,000
28	国	一橋大学	4	12,300	23	国	茨城大学	5	4,200	28	国	北海道教育大学	7	8,900
28	国	京都大学	4	10,100	30	私	日本女子大学	4	11,700	28	短	筑波技術短期大学	7	8,600
28	私	淑徳大学	4	8,300	30	私	関西学院大学	4	8,000	28	国	大阪教育大学	7	8,500
28	国	静岡大学	4	8,100	30	国	宮崎大学	4	7,200	28	国	福島大学	7	6,700
28	私	日本社会事業大学	4	7,000	30	国	福島大学	4	6,700					
28	私	帝京大学	4	6,700	30	国	琉球大学	4	5,800					
28	国	佐賀大学	4	6,000	30	私	淑徳大学	4	3,900					
28	私	佛教大学	4	4,000	30	国	北海道教育大学	4	3,800					
28	私	駒澤大学	4	3,200										
合計			475	1,005,900	合計			532	891,200	合計			768	1,218,400

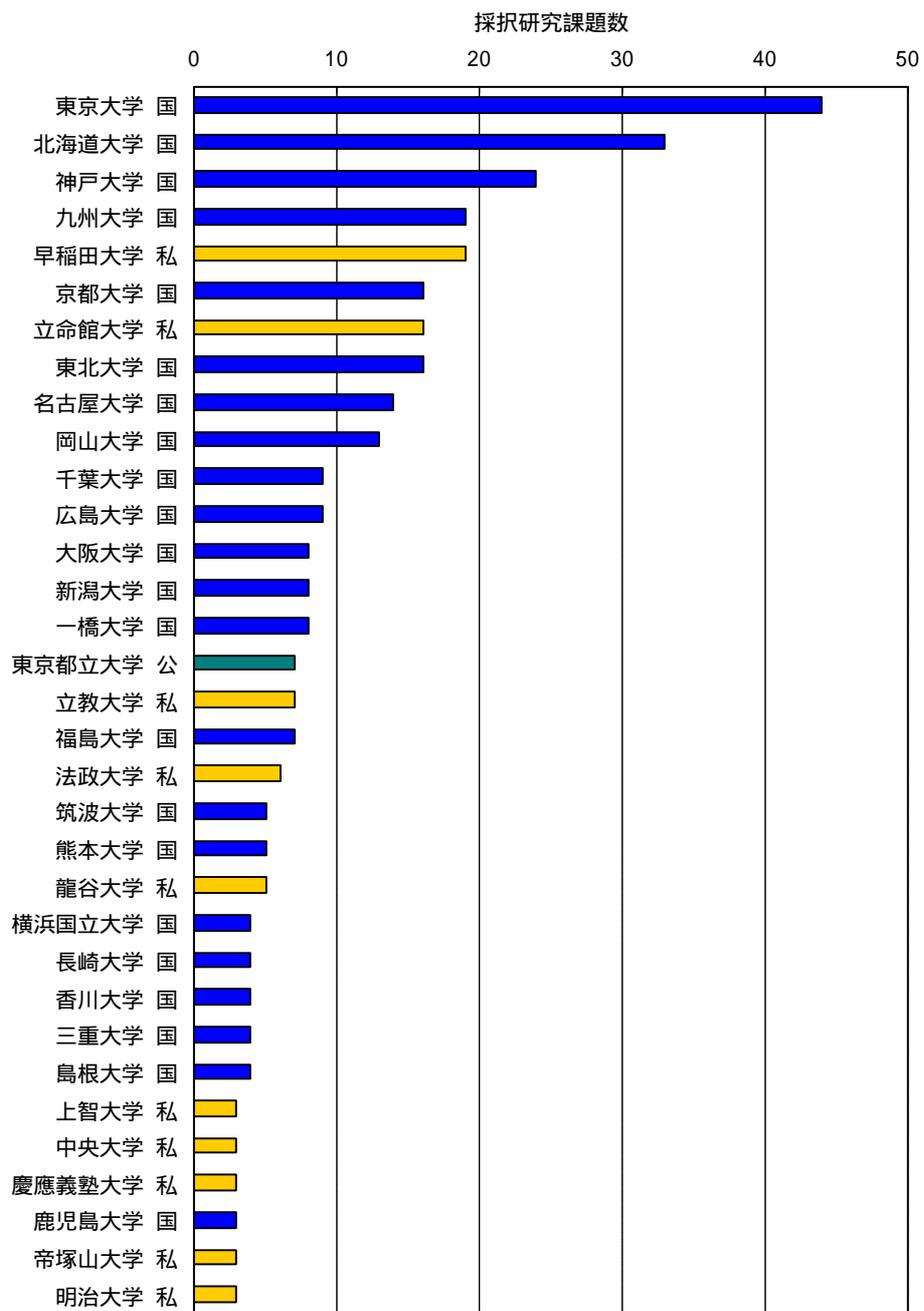


図 2 - 10 - 1 法学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

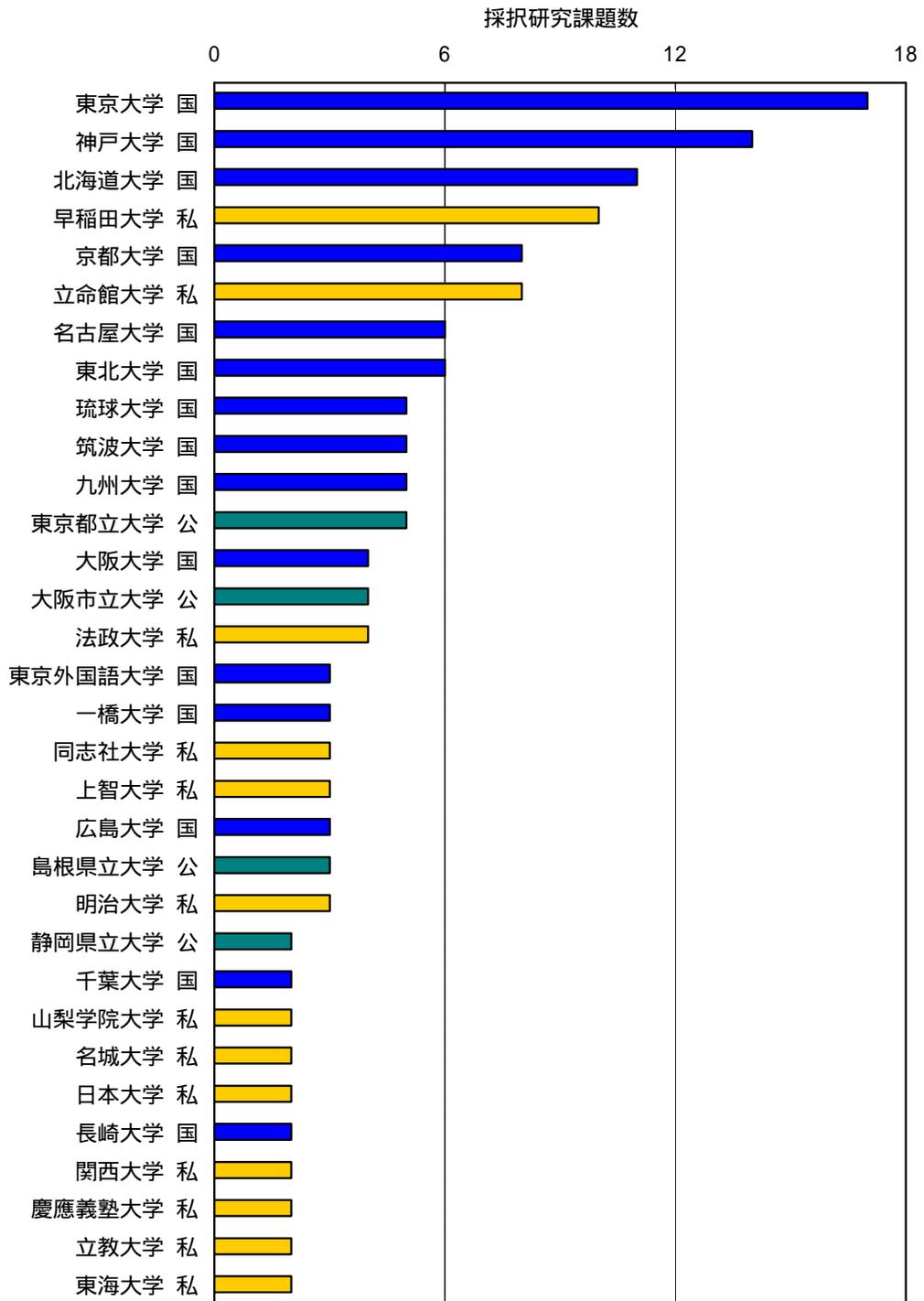


図 2 - 10 - 2 政治学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

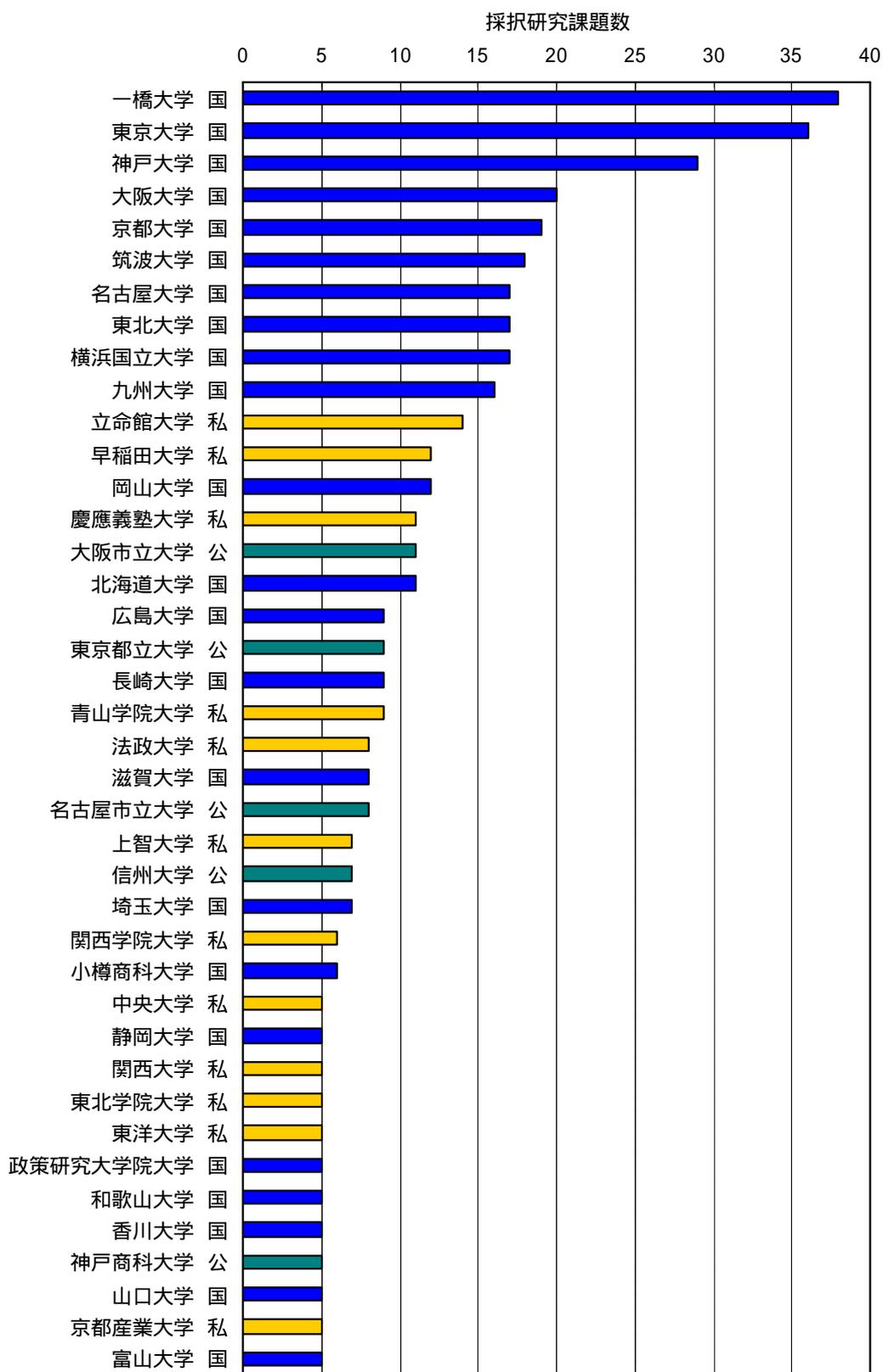


図 2 - 10 - 3 経済学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

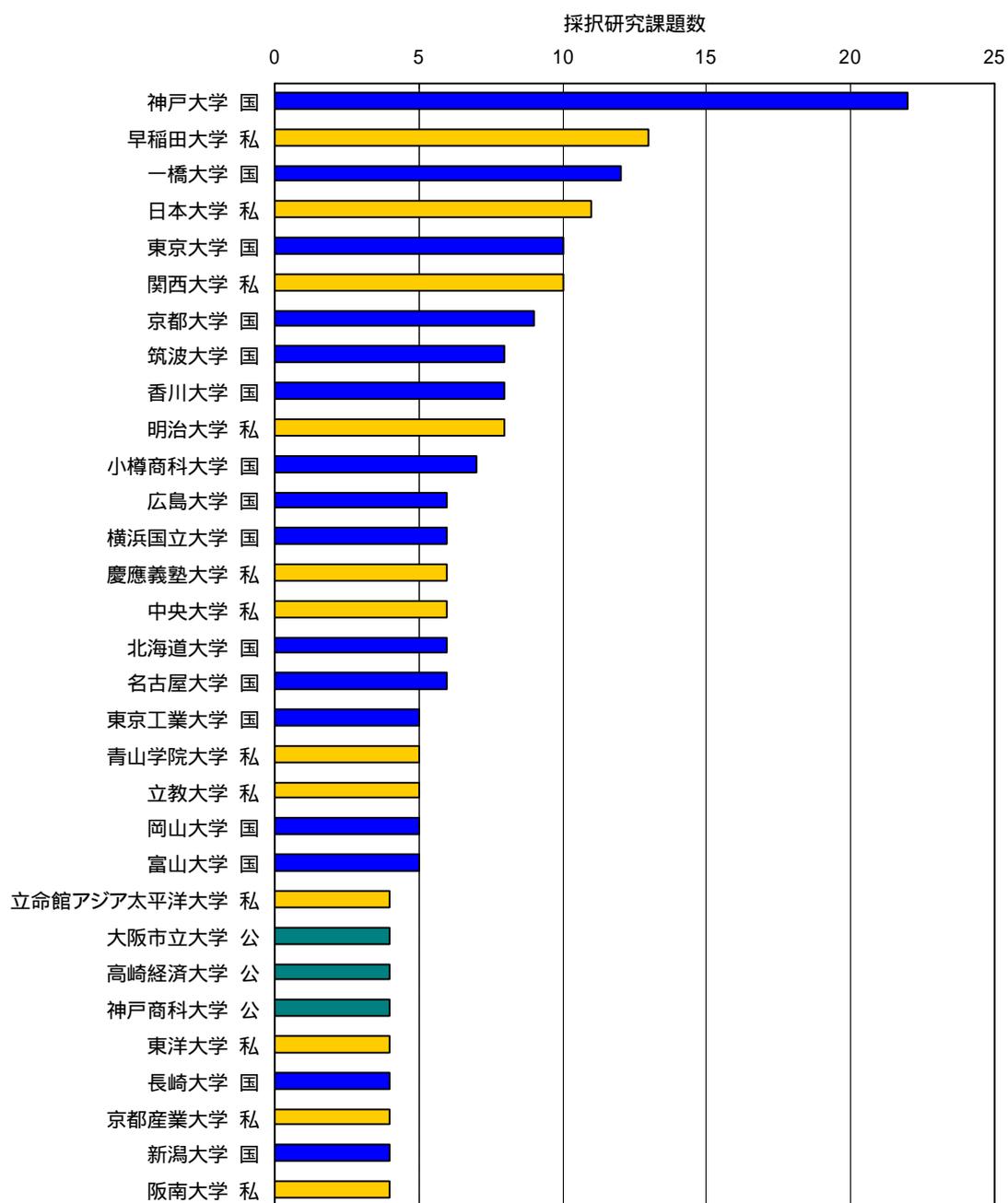


図 2 - 10 - 4 経営学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

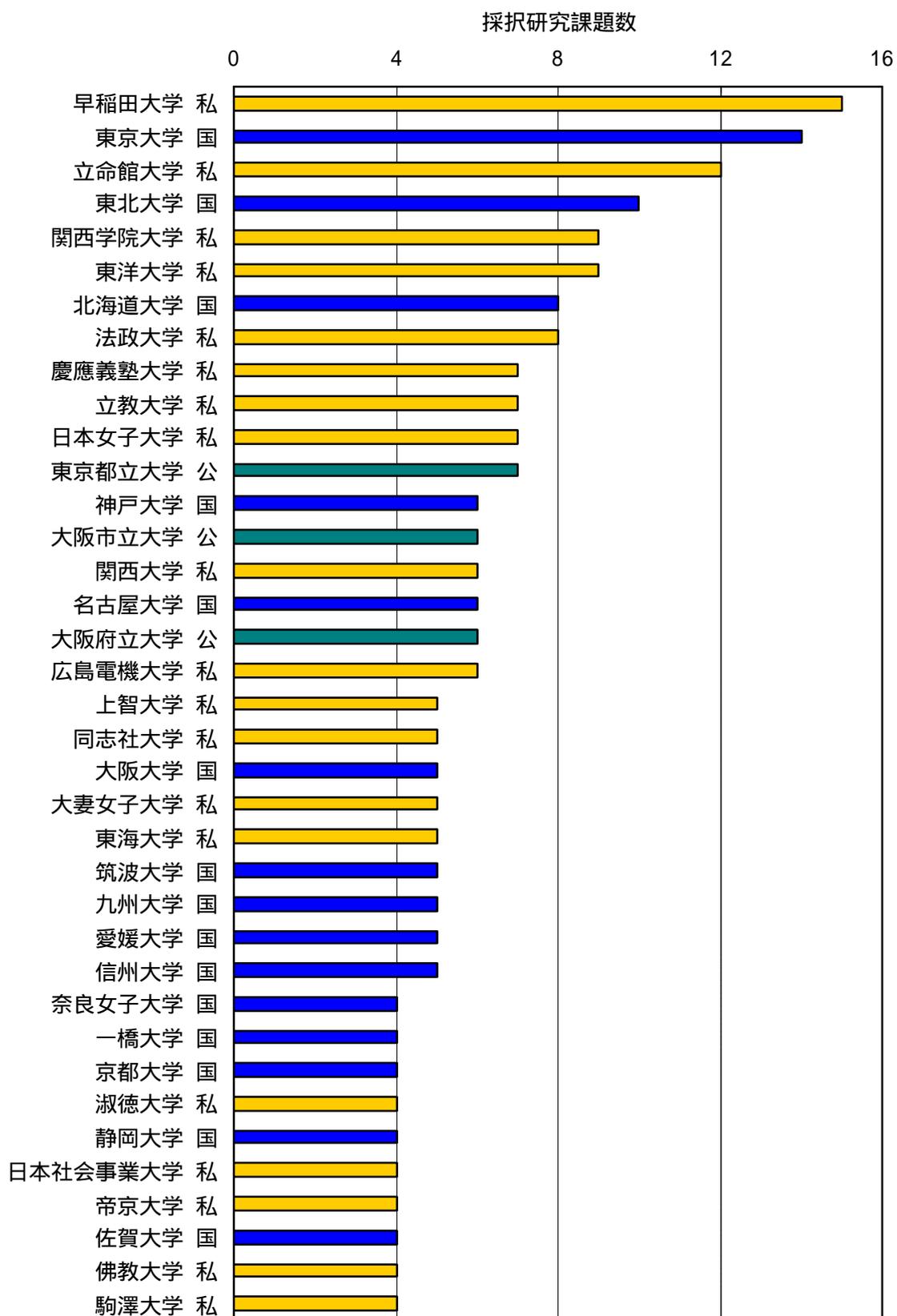


図 2 - 10 - 5 社会学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

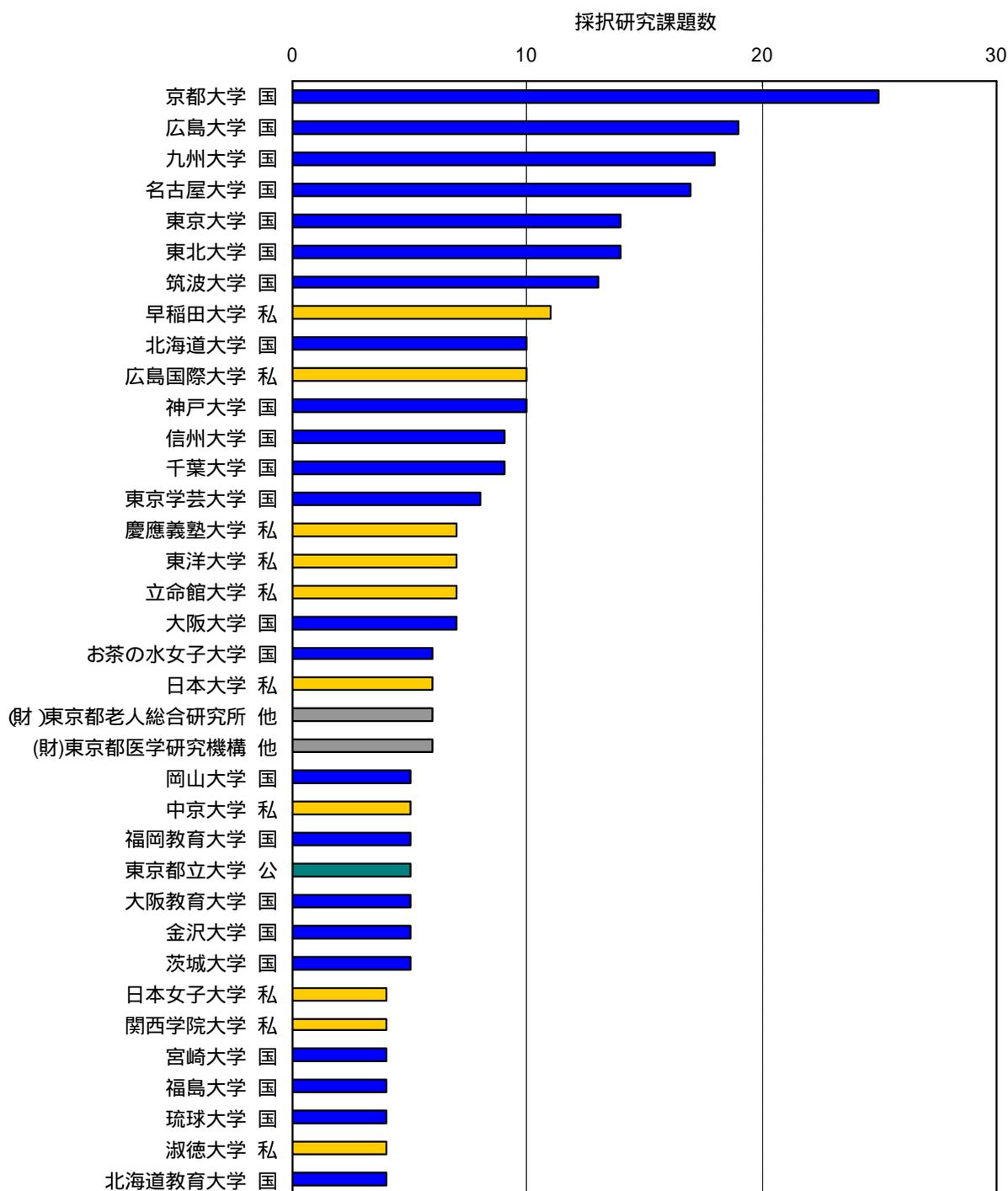


図 2 - 10 - 6 心理学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

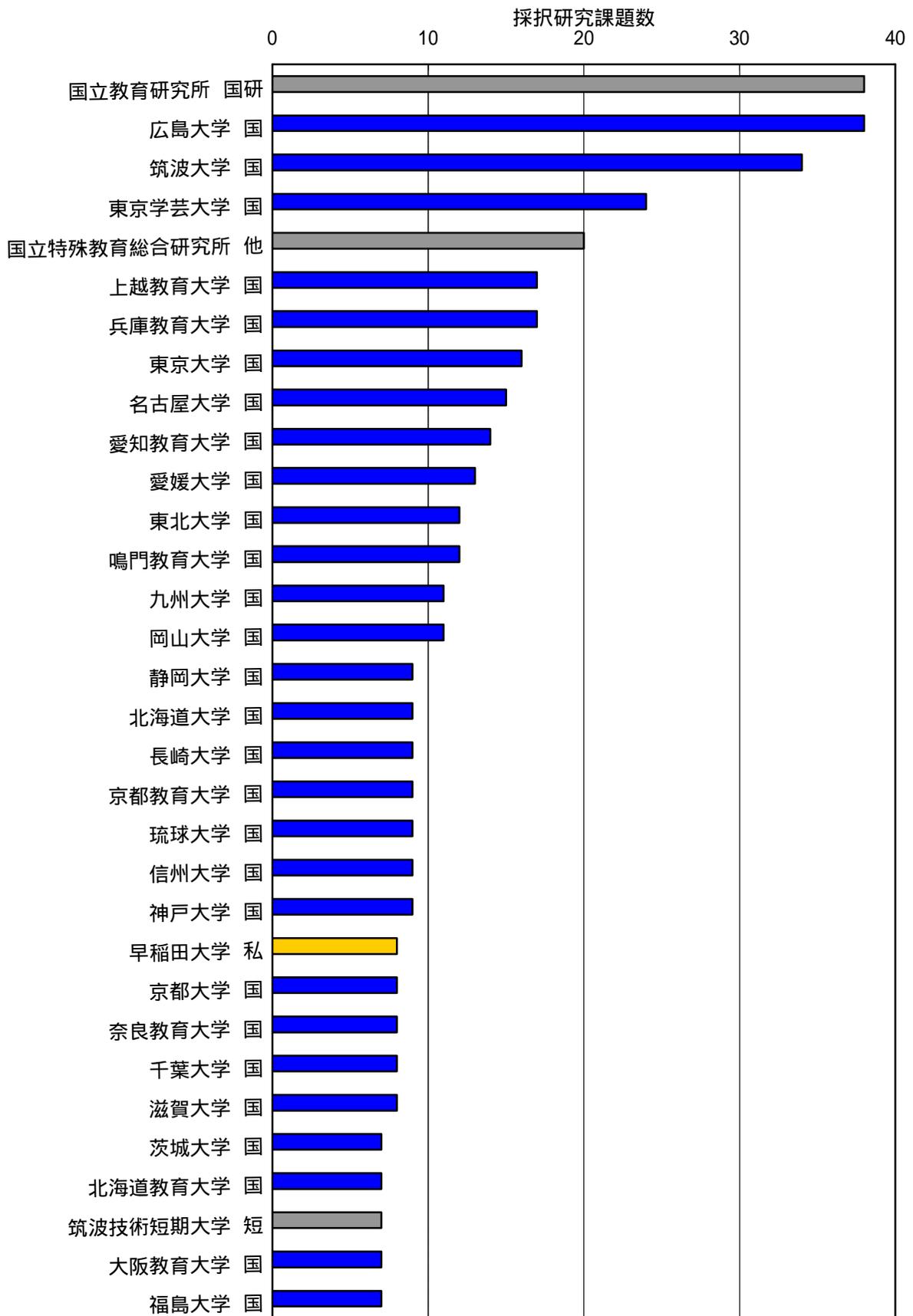


図 2 - 10 - 7 教育学採択研究課題数上位 30 位 (2003 年度)

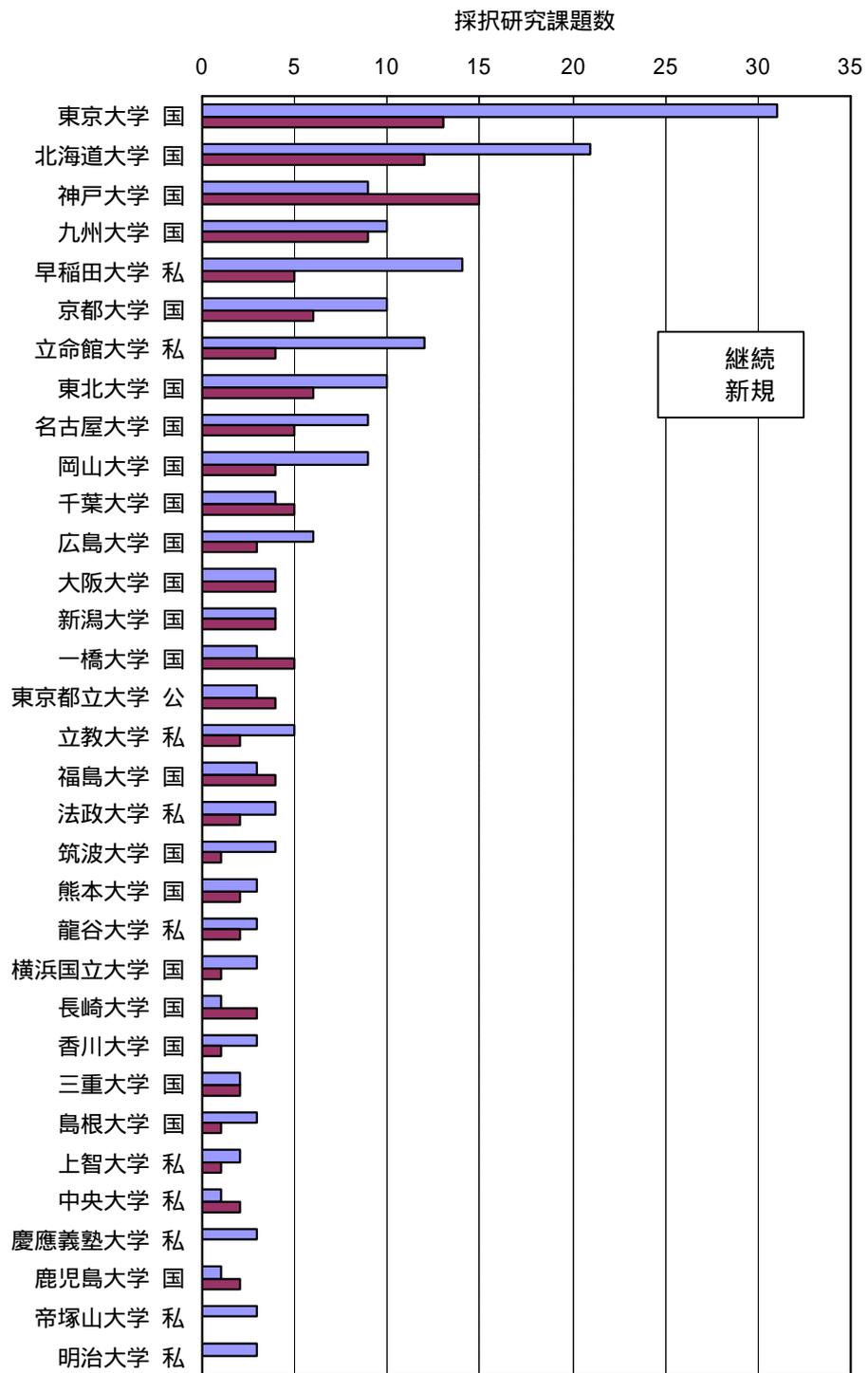


図 2 - 11 - 1 法学の新規研究課題数および継続研究課題数 (2003 年度)

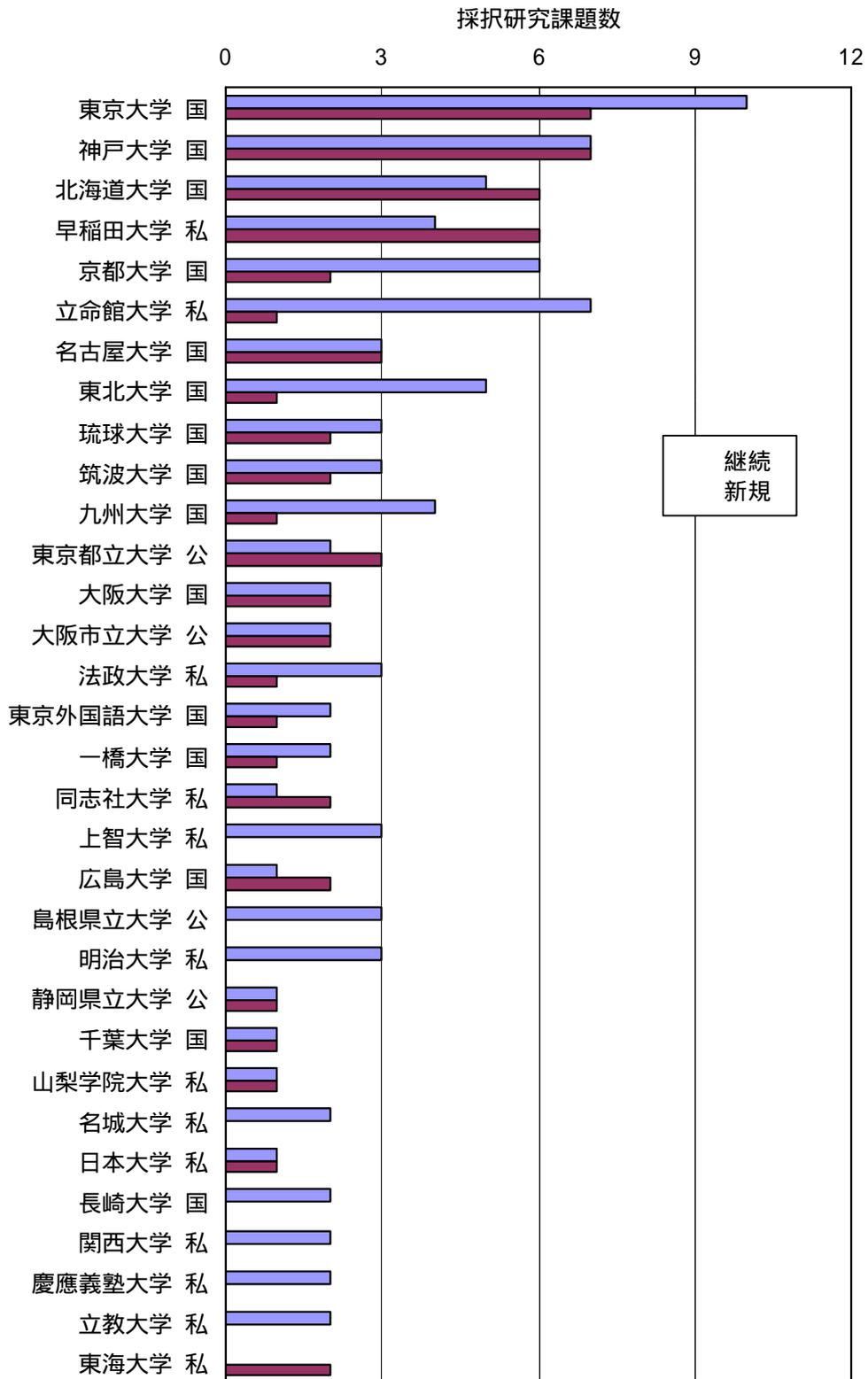


図 2 - 11 - 2 政治学の新規研究課題数および継続研究課題数 (2003 年度)

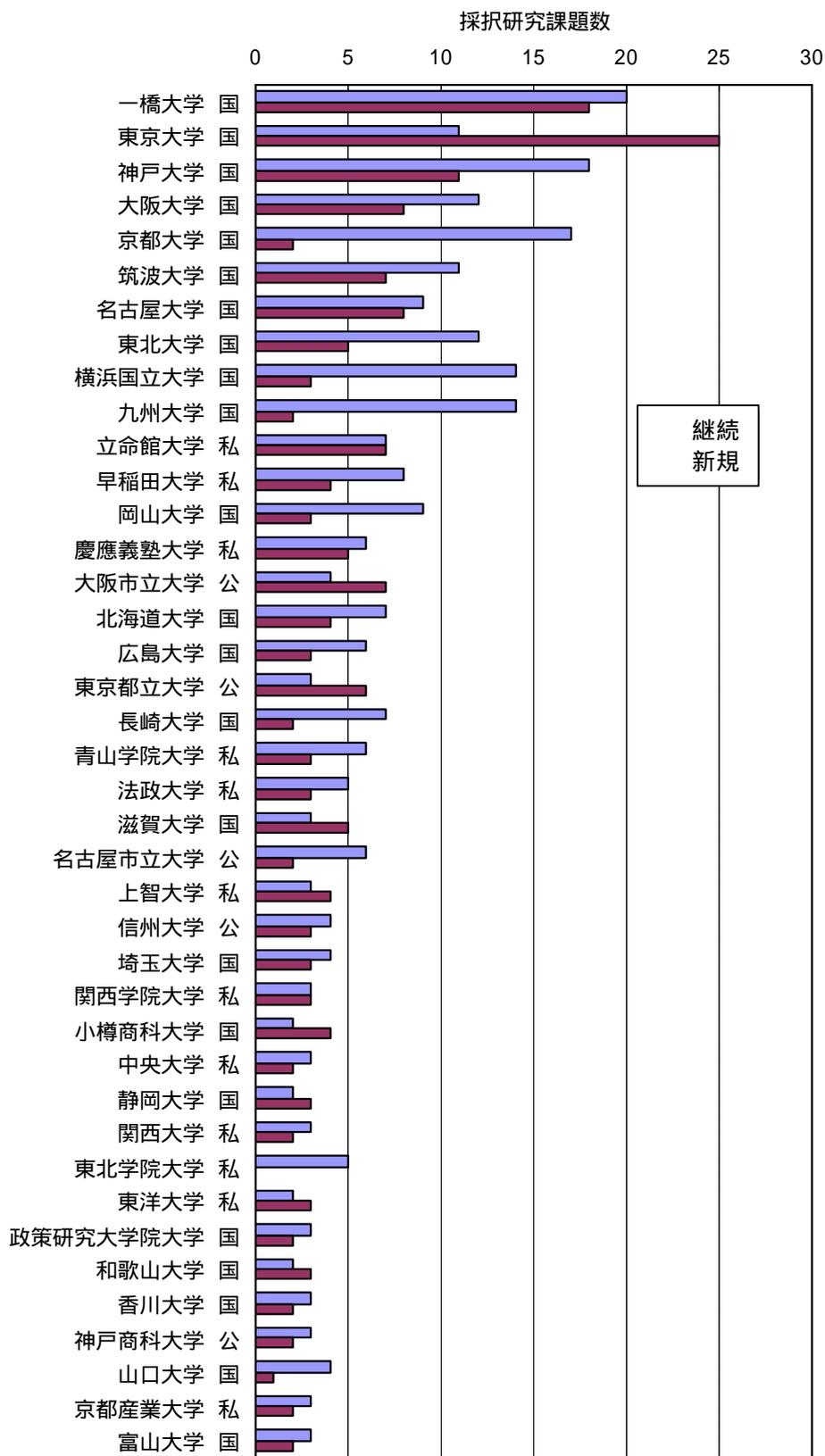


図 2 - 11 - 3 経済学の新規研究課題数および継続研究課題数 (2003 年度)

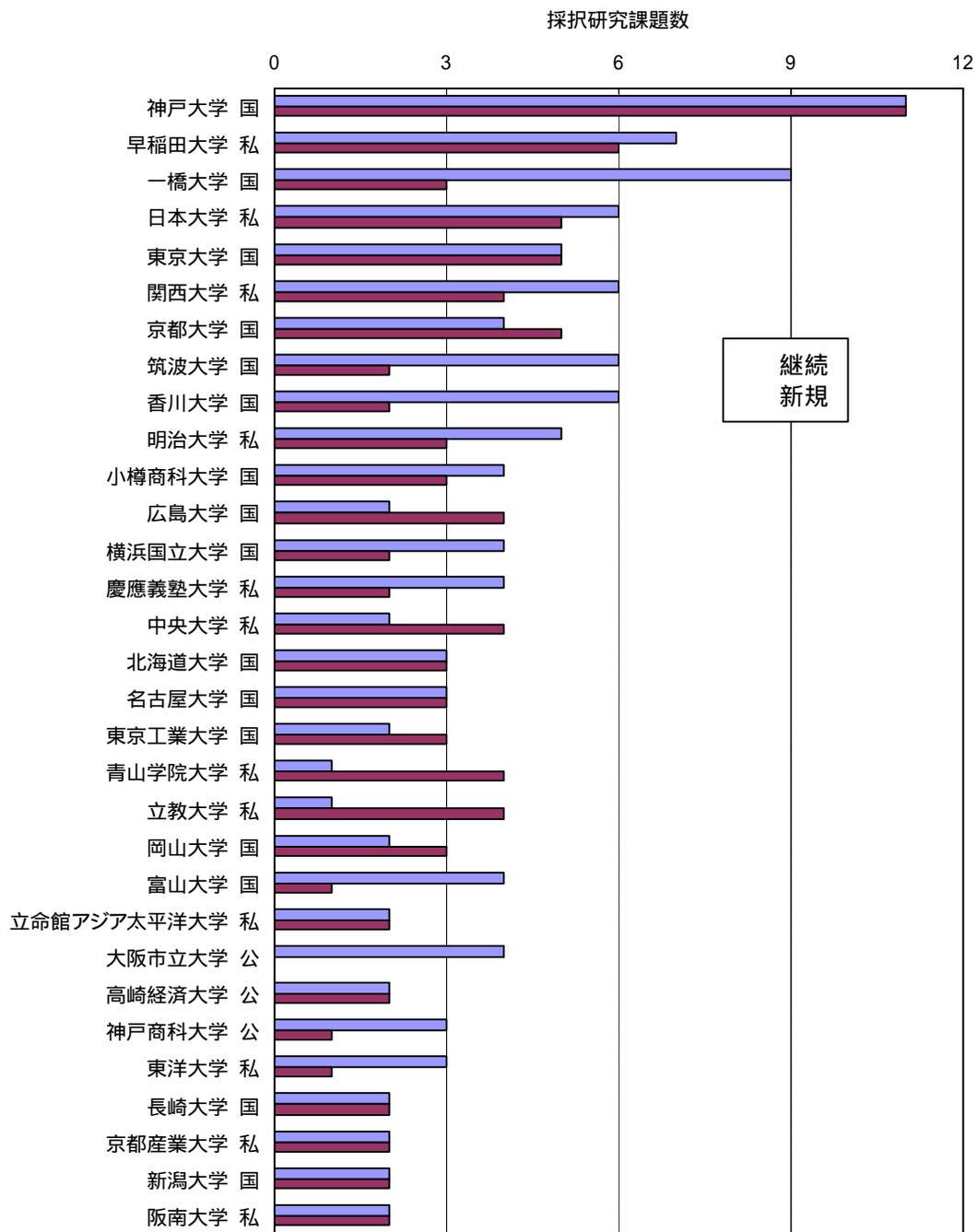


図 2 - 11 - 4 経営学の新規研究課題数および継続研究課題数 (2003 年度)

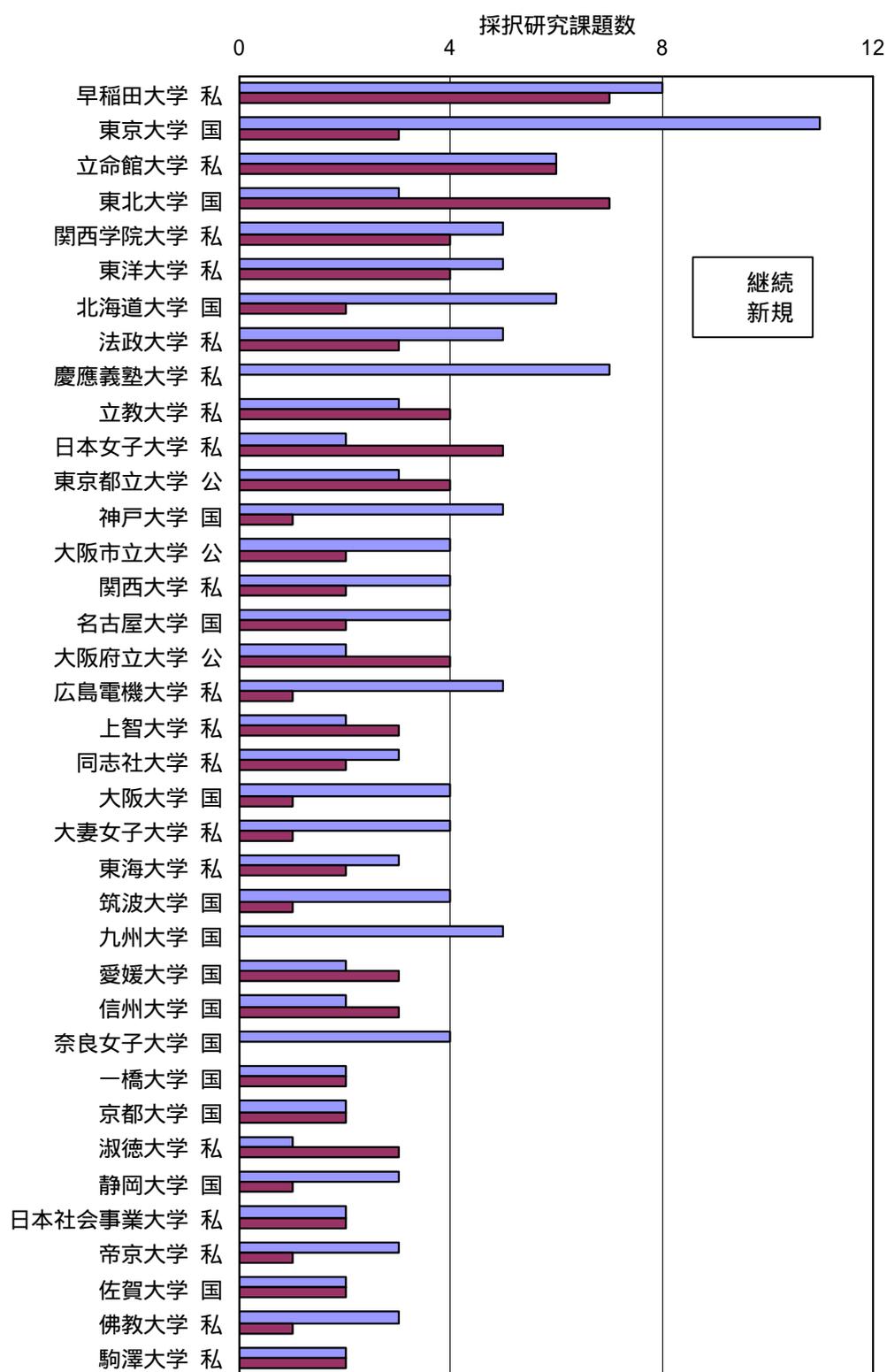


図 2 - 11 - 5 社会学の新規研究課題数および継続研究課題数 (2003 年度)

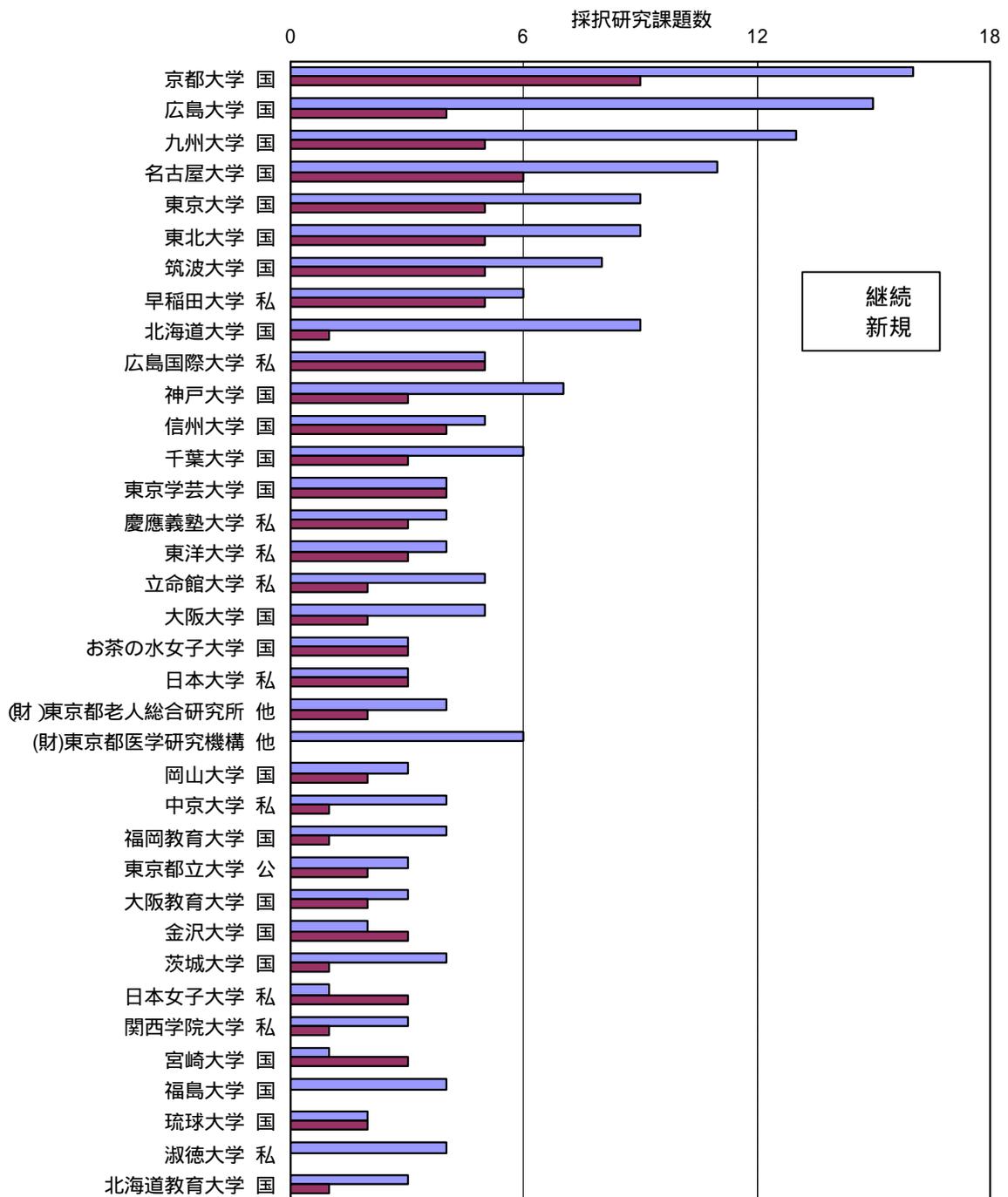


図 2 - 11 - 6 心理学の新規研究課題数および継続研究課題数 (2003 年度)

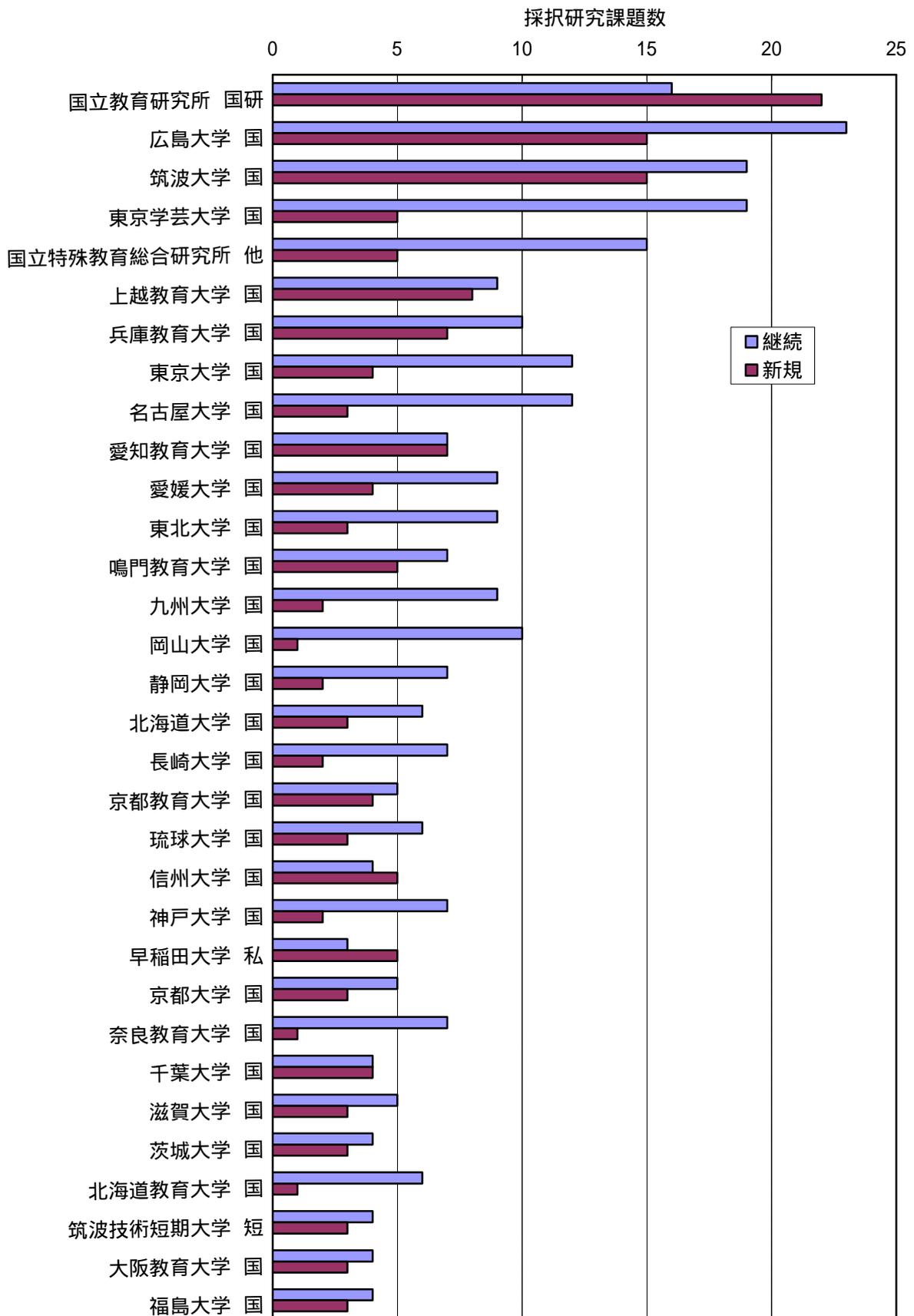


図 2 - 11 - 7 教育学の新規研究課題数および継続研究課題数（2003 年度）

末尾になったが、この一連の科学研究費補助金採択研究課題数による大学の研究活性度の調査研究にあたって、データの整理、編集、図表の作成をお願いした東京大学生産技術研究所の斉藤加余子氏に感謝の意を表する。